

弥生製品を インストール しよう

1

インストール・コンバートマニュアル

こんなときに
便利です!

製品のインストール、
アンインストール
方法を知りたい。

旧製品の
データを移行して
利用したい。

● OS に影響する操作を行う場合

インストールやコントロールパネルの操作など、OS に影響する操作を行うには管理者権限が必要となります。これらの操作を行う際に、「ユーザーアカウント制御」に関するメッセージが表示された場合は、メッセージ内容を確認し、[続行] ([はい]) または [実行] ボタンをクリックします。管理者アカウントのパスワードを要求された場合は、コンピューターの管理者にご確認ください。

● セットアップ中のエラーについて

製品のセットアップ中にエラーとなった場合に表示される主なメッセージについて『データベースインストールマニュアル』の『困ったときは』で解説しています。

セットアップ作業中にエラーメッセージが表示された場合に参考にしてください。

【お断り】

- 本書および弥生会計のヘルプは、Microsoft Windows 7 の環境で作成しています。Microsoft Windows 10/8.1 では、画面および表記等が異なることがあります。
- 本書の解説では、弥生会計 19 プロフェッショナル 2 ユーザーの画面を使用しています。ネットワークの場合は「プロフェッショナル 2 ユーザー」を「ネットワーク」に読み替えてください。

本書は、2018 年 8 月現在の製品仕様により作成しています。

そのため、本書の記載事項や画面などと、製品仕様が異なる場合も生じますことを、あらかじめご了承ください。

また、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、弊社にご連絡ください。

弥生製品のサポートは、サポート加入状況によって、サポート・サービスの対象となる機能や環境が異なります。詳細は『あんしん保守サポートガイド』でご確認ください。

Microsoft、Windows、Windows Server、SQL Server、Internet Explorer、Outlook、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、Acrobat、Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。

本文中、® マークは明記しておりません。

覚書(メモ)

次の内容をメモに記入して、大切に管理してください。

	記入欄
弥生製品登録番号 (P3)	- - -
サーバーの コンピューター名 (P32)	
データベースの sa パスワード ※	

※「データベースの sa パスワード」は、データベースのインストール時に設定したパスワードです。
『データベースインストールマニュアル』-「第 2 章 データベースのセットアップ」を参照してください。



データベースの sa パスワードは、大切に保管してください

「データベースの sa パスワード」を記入したら、不正アクセスや情報漏えいなどを防止するために、必要のない他の人には知られないように保管してください。

次の順でセットアップの準備を進めてください

Step1

セットアップ前の
準備→(P3)



Step2

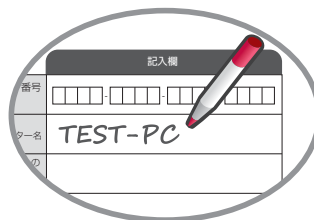
セットアップの流れ
→(P8)

セットアップ前の準備

～ セットアップ前には準備が必要です ～

確認しておくこと

セットアップする前に、製品のインストールに必要な項目や注意事項を確認します。
必要に応じて、確認した内容を忘れないように P2 の「覚書(メモ)」に記入していきます。



弥生製品登録番号の確認

弥生製品登録番号は、弥生製品をインストールするときに必要です。弥生製品をインストールする前に確認しておきましょう。

弥生製品登録番号は、下記の方法で確認することができます。確認したら「弥生製品登録番号」を「覚書(メモ)」(P2)に転記しましょう。

- ・ 店頭で購入した製品および弊社より発送した製品
ディスクのケースまたはパッケージに同梱されている文書で確認できます。
- ・ ダウンロード販売で購入した製品
購入時の電子メールで確認できます。

いずれの方法でも、ユーザー登録が完了している方は、次の手順で表示できるマイポータル(Web)で弥生製品登録番号を確認することができます。
デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。画面右上の[マイポータル(Web)]をクリックします。



弥生製品登録番号は、大切に保管しておいてください

弥生製品登録番号は、製品の初回起動時だけでなく、コンピューター移行時や再インストール時、次バージョンのインストール時にも必要です。大切に管理しておいてください。

必要なハードウェアとソフトウェア

弥生会計を使用するために、必要なハードウェアやソフトウェアを確認しておきましょう。

→必要なハードウェアとソフトウェア(P24)

弥生会計のシステム構成

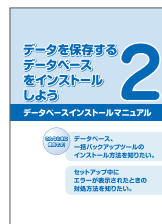
初めて弥生会計プロフェッショナル2ユーザー、または弥生会計ネットワークを導入する場合には、「サーバー」と「クライアント」のシステム構成を確認しておきましょう。

→弥生会計のシステム構成(P29)

データベースに関する注意

弥生製品のデータは、「YAYOI インスタンス」という弥生製品用のデータベースに保存されます。データベースに関する注意事項を確認しておきましょう。

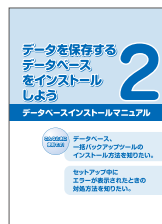
→別冊『データベースインストールマニュアル』－「第 1 章
セットアップ前の確認」



ネットワーク環境に関する注意

複数台のコンピュータで利用するために、ネットワーク環境で使用する際の注意事項を確認しておきましょう。

→別冊『データベースインストールマニュアル』－「第 1 章
セットアップ前の確認」



サーバーのコンピューター名の確認

ネットワーク環境で弥生会計を使用するには、サーバーとクライアントの各設定で、サーバー（データベースをインストールしたコンピュータ）のコンピューター名を使用します。セットアップ前に確認しておきましょう。

→コンピューター名の確認(P32)

ここまで完了したら、「セットアップの流れ」(P8)に進んでください。

目 次

第 1 章	セットアップの流れ	7
1	セットアップの流れ.....	8
2	ネットワーク製品を初めて導入する場合	9
2-1	弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーの場合	9
2-2	弥生会計ネットワークの場合	13
3	旧製品からバージョンアップする場合	17
3-1	弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーの場合	17
3-2	弥生会計ネットワークの場合	20
第 2 章	インストール前の確認	23
1	必要なハードウェアとソフトウェア	24
2	弥生会計のシステム構成	29
2-1	弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーのシステム構成 ...	30
2-2	弥生会計ネットワークのシステム構成	31
3	コンピューター名の確認	32
第 3 章	データベースのインストール	33
1	データベースのインストール.....	34
第 4 章	弥生会計 19 のインストール	35
1	弥生会計のインストール	36
2	弥生会計の起動.....	41
3	ライセンス認証と認証解除	42
3-1	ライセンス認証について	42
3-2	ライセンス認証	43
3-3	ライセンス認証の解除	47
4	ユーザー登録<プロフェッショナル 2 ユーザーのみ>	50

第 5 章	データベースへの接続設定	51
1	弥生会計とデータベースの接続設定.....	52
2	ログインパスワード(sa パスワード)の設定.....	53
第 6 章	旧製品からの移行	57
1	コンバートの概要	58
1-1	コンバート対象製品	58
2	旧製品データのコンバート.....	59
2-1	弥生会計 19 データへの変換	59
3	分散入力用データのコンバート	64
4	マルチユーザー形式への変換	65
第 7 章	プログラムの修復と削除	69
1	プログラムの修復と削除.....	70
1-1	弥生会計または付属プログラムの修復	70
1-2	弥生会計または付属プログラムの削除	72

1

セットアップの流れ

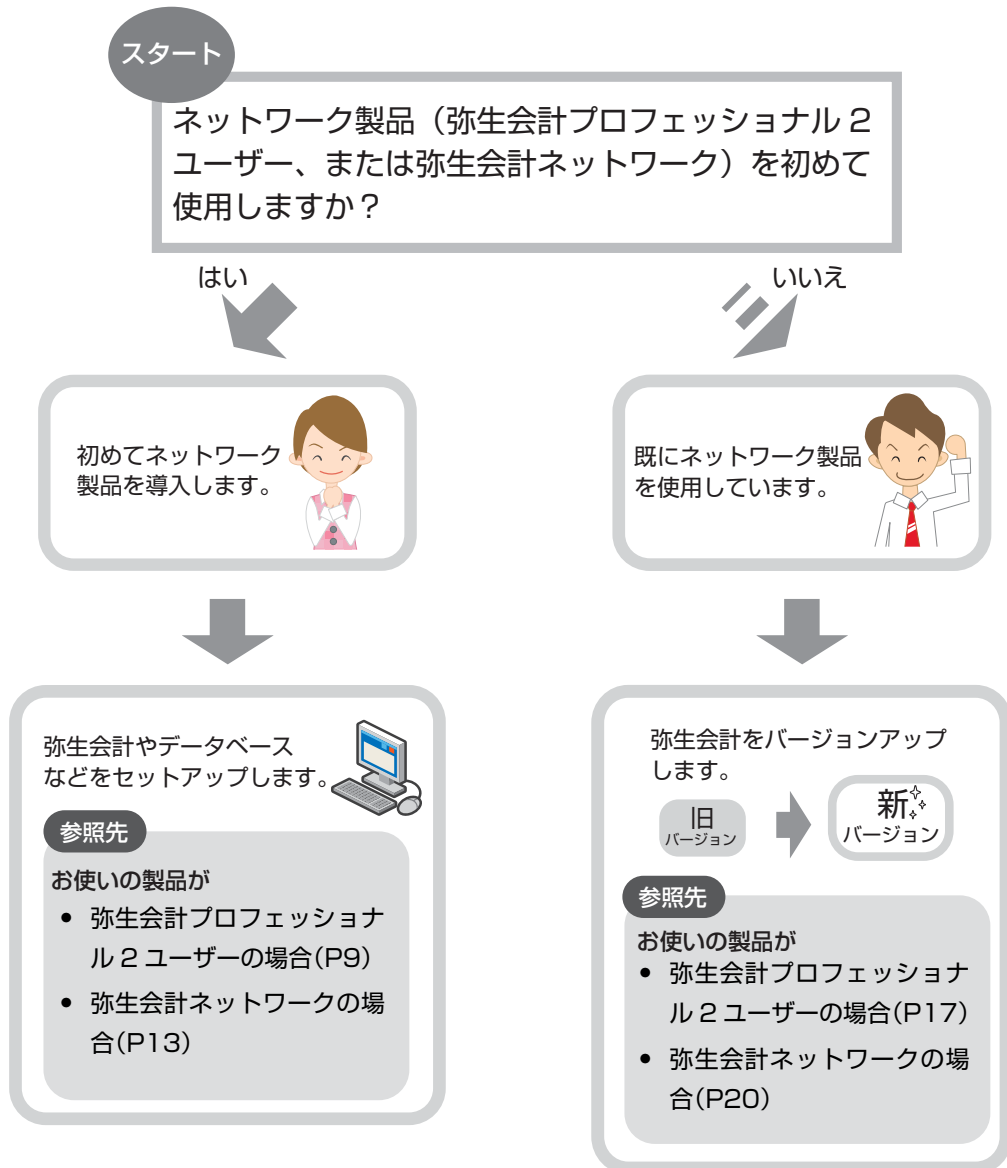
弥生会計 19 を使用するためのセットアップの流れを説明します。

- 1 セットアップの流れ 8
- 2 ネットワーク製品を初めて導入する場合 9
- 3 旧製品からバージョンアップする場合 17

1 セットアップの流れ

セットアップ方法の確認

弥生製品は、「初めて弥生会計を導入する場合」と「既に弥生会計を使用されている場合」とでセットアップの流れが異なります。ご自分がどのセットアップ方法に該当するか次のフローで確認しましょう。



※ ネットワーク製品とは、弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー/ 弥生会計ネットワークを指します。

2 ネットワーク製品を初めて導入する場合

セットアップ方法は、弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーと弥生会計ネットワークで異なります。購入された製品のセットアップ方法を参照してください。

製品名	参照先
弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー	P9
弥生会計ネットワーク	P13



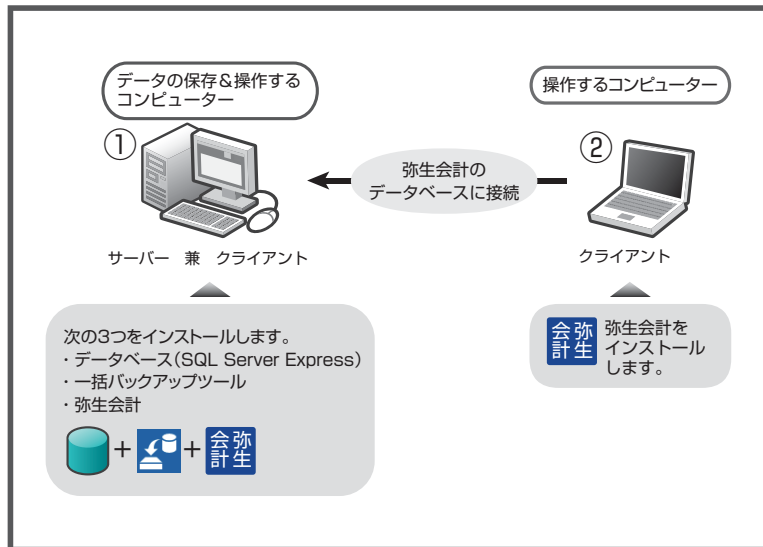
メモ

セットアップ前に知っておきたいこと(サーバーとクライアント)

弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー、または弥生会計ネットワークでは、コンピューターを「サーバー」と「クライアント」に役割を分担して、各コンピューターにプログラムをセットアップする必要があります。セットアップ前にサーバーとクライアントや弥生会計のシステム構成について理解しておきましょう。詳細は、「弥生会計のシステム構成」(P29)を参照してください。

2-1 弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーの場合

「データの保存＆操作するコンピューター(サーバー 兼 クライアント)」のセットアップが完了後、「操作するコンピューター(クライアント)」のセットアップを行ってください。

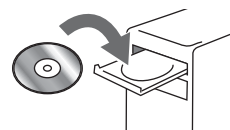


👉 セットアップ手順

① データの保存&操作するコンピューター（サーバー 兼 クライアント）

1 弥生会計の DVD-ROM をセット

弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



2 データベースのインストール

日々の会計データを保存するための、データベース(SQL Server Express)をインストールします。

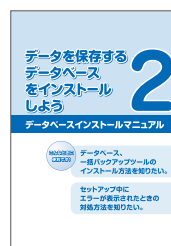
詳細は、別冊『データベースインストールマニュアル』—「第2章 データベースのセットアップ」を参照してください。

3 YAYOI インスタンスの確認

データベース(SQL Server Express)の YAYOI インスタンスが起動していることを確認します。

4 一括バックアップツールのインストール

データベースに保存された複数の事業所データを一括してバックアップすることができる一括バックアップツールをインストールします。
一括バックアップツールでは、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。
操作方法については、ヘルプを参照してください。



5 弥生会計のインストール → P35

弥生会計をインストールします。

6 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証(P42)とユーザー登録(P50)(ユーザー登録画面が表示されない場合は設定不要)を行います。

ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

7 弥生会計とデータベースの接続設定 (sa パスワードの設定) → P53

弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。



設定し忘れにご注意ください

データベースのログインパスワード(sa パスワード)の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

初めて弥生会計を使用しますか？それとも、弥生会計プロフェッショナル / スタンダード / やよいの青色申告からアップグレードしますか？

次の手順に進んでください。

- ・ 初めて弥生会計を使用する場合→「初めて弥生会計を使用する場合」
- ・ アップグレードする場合→「アップグレードする場合」

● 初めて弥生会計を使用する場合

事業所データの作成→『操作マニュアル』の「事業所データの新規作成」

弥生会計を起動して、会計データを保存する事業所データを作成します。事業所データの作成方法の詳細は、別冊『操作マニュアル』の「事業所データの新規作成」を参照してください。

手順 8 へ進んでください。

または

● アップグレードする場合

事業所データのコンバート → P58

旧製品の事業所データをコンバート(変換)して、弥生会計 19 で使用できるスタンドアロン形式のデータに置き換えます。

マルチユーザー形式への変換 → P65

スタンドアロン形式にコンバートした事業所データを、マルチユーザー形式のデータへ変換します。

手順 8 へ進んでください。

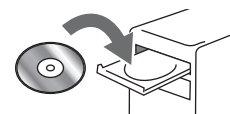
8 事業所データを使用するユーザーを登録→ヘルプ「ユーザーの登録」

事業所データには、同時に同じユーザー名でログインすることはできません。あらかじめ事業所データを使用するユーザーを登録しておきましょう。ユーザーの登録については、ヘルプ「ユーザーの登録」を参照してください。ヘルプは、弥生会計を起動して（P41）、[ヘルプ]メニューの[目次とキーワード]をクリックすると表示できます。

② 操作するコンピューター（クライアント）

1 弥生会計の DVD-ROM をセット

弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



2 弥生会計のインストール → P35

弥生会計をインストールします。

3 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証（P42）を行います。
ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

4 弥生会計とデータベースの接続設定（sa パスワードの設定） → P53

弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。

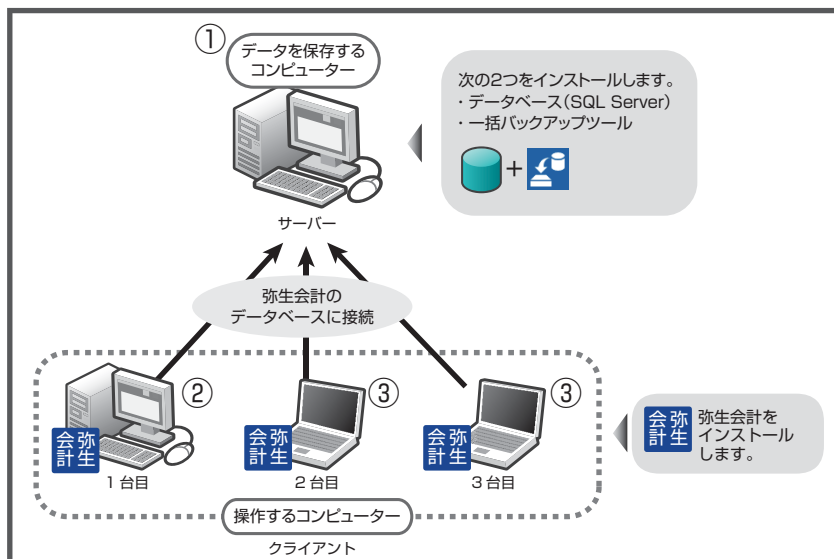


設定し忘れにご注意ください

データベースのログインパスワード（sa パスワード）の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

2-2 弥生会計ネットワークの場合

「データを保存するコンピューター(サーバー)」のセットアップが完了後、「操作するコンピューター(クライアント)」のセットアップを行ってください。

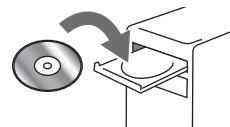


👉 セットアップ手順

① データを保存するコンピューター (サーバー)

1 SQL Server のDVD-ROM をセット

SQL Server のDVD-ROM をDVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



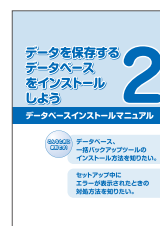
2 データベースのインストール

日々の会計データを保存するための、データベース(SQL Server)をインストールします。

3 YAYOI インスタンスの確認

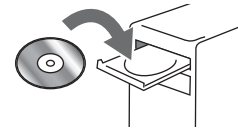
データベース(SQL Server)の YAYOI インスタンスが起動していることを確認します。

詳細は、別冊「データベースインストールマニュアル」-「第2章 データベースのセットアップ」を参照してください。



4 弥生会計の DVD-ROM をセット

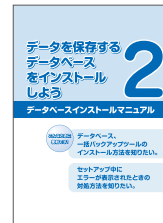
弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



5 一括バックアップツールのインストール

データベースに保存された複数の事業所データを一括してバックアップすることができる一括バックアップツールをインストールします。一括バックアップツールでは、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。

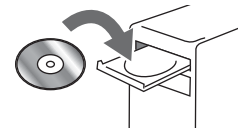
インストール方法については、別冊『データベースインストールマニュアル』-「第2章 データベースのセットアップ」を参照してください。操作方法については、ヘルプを参照してください。



② 操作するコンピューター（クライアント）：1 台目

1 弥生会計の DVD-ROM をセット

弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



2 弥生会計のインストール → P35

弥生会計をインストールします。

3 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証(P42)を行います。

ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

4 弥生会計とデータベースの接続設定 (sa パスワードの設定) → P53

弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。



設定し忘れにご注意ください

データベースのログインパスワード(sa パスワード)の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

初めて弥生会計を使用しますか？それとも、弥生会計プロフェッショナル / スタンダード / やよいの青色申告からアップグレードしますか？

次の手順に進んでください。

- ・ 初めて弥生会計を使用する場合→「初めて弥生会計を使用する場合」
- ・ アップグレードする場合→「アップグレードする場合」

● 初めて弥生会計を使用する場合

事業所データの作成→『操作マニュアル』の「事業所データの新規作成」

弥生会計を起動して、会計データを保存する事業所データを作成します。事業所データの作成方法の詳細は、別冊『操作マニュアル』の「事業所データの新規作成」を参照してください。

手順 5 へ進んでください。

または

● アップグレードする場合

事業所データのコンバート → P58

旧製品の事業所データをコンバート(変換)して、弥生会計 19 で使用できるスタンドアロン形式のデータに置き換えます。

マルチユーザー形式への変換 → P65

スタンドアロン形式にコンバートした事業所データを、マルチユーザー形式のデータへ変換します。

手順 5 へ進んでください。

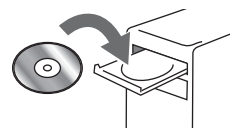
5 事業所データを使用するユーザーを登録→ヘルプ「ユーザーの登録」

事業所データには、同時に同じユーザー名でログインすることはできません。あらかじめ事業所データを使用するユーザーを登録しておきましょう。ユーザーの登録については、ヘルプ「ユーザーの登録」を参照してください。ヘルプは、弥生会計を起動して（P41）、[ヘルプ]メニューの[目次とキーワード]をクリックすると表示できます

③ 操作するコンピューター（クライアント）：2 台目以降

1 弥生会計の DVD-ROM をセットします。

弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



2 弥生会計のインストール → P35

弥生会計をインストールします。

3 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証（P42）を行います。

ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

4 弥生会計とデータベースの接続設定（sa パスワードの設定） → P53

弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。



設定し忘れにご注意ください

データベースのログインパスワード（sa パスワード）の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

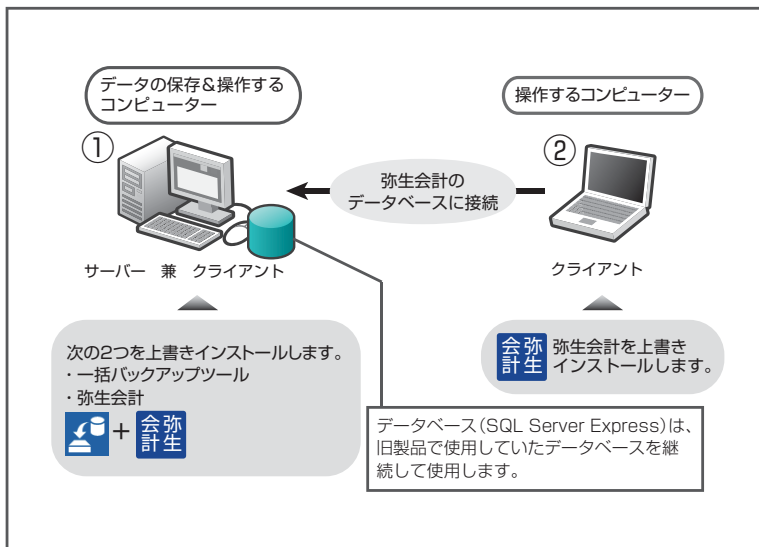
3 旧製品からバージョンアップする場合

弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーと弥生会計ネットワークで、セットアップ方法が異なります。購入された製品のセットアップ方法を参照してください。

製品名	参照先
弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー	P17
弥生会計ネットワーク	P20

3-1 弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーの場合

「データの保存＆操作するコンピューター(サーバー 兼 クライアント)」のセットアップが完了後、「操作するコンピューター(クライアント)」のセットアップを行ってください。



👉 セットアップ手順

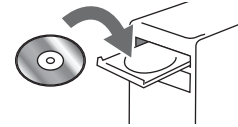


弥生オンラインアップデートから弥生会計 19 をインストールした場合
弥生会計の終了時に表示される「弥生オンラインアップデート」ダイアログから弥生会計 19 をインストールした場合は、DVD-ROM から弥生会計をインストールしていただく必要はありません(「弥生会計のインストール」の手順は不要)。
弥生会計 19 がインストールされているかどうかの確認は、次の手順で「バージョン情報」ダイアログを表示して行います。
デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして「弥生マイポータル」を起動します。「弥生会計(やよいの青色申告)」メニューの「サポートツール」－「バージョン情報」をクリックします。

① データの保存＆操作するコンピューター（サーバー 兼 クライアント）

1 弥生会計の DVD-ROM をセット

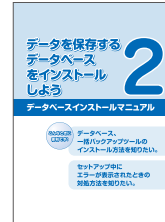
弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



2 一括バックアップツールのインストール

データベースに保存された複数の事業所データを一括してバックアップすることができる一括バックアップツールをインストールします。一括バックアップツールでは、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。

インストール方法については、別冊『データベースインストールマニュアル』-「第2章 データベースのセットアップ」を参照してください。操作方法については、ヘルプを参照してください。



3 弥生会計のインストール → P35

弥生会計をインストールします。

4 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証 (P42) とユーザー登録 (P50) (ユーザー登録画面が表示されない場合は設定不要) を行います。

ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

5 弥生会計とデータベースの接続設定 (sa パスワードの設定) → P53

弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。



設定し忘れにご注意ください

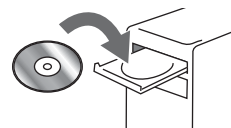
データベースのログインパスワード (sa パスワード) の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

6 事業所データのコンバート → P58

旧製品の事業所データをコンバート(変換)して、弥生会計 19 で使用できるデータに置き換えます。

② 操作するコンピューター (クライアント)**1 弥生会計の DVD-ROM をセット**

弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。

**2 弥生会計のインストール → P35**

弥生会計をインストールします。

3 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証(P42)を行います。
ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

4 弥生会計とデータベースの接続設定 (sa パスワードの設定) → P53

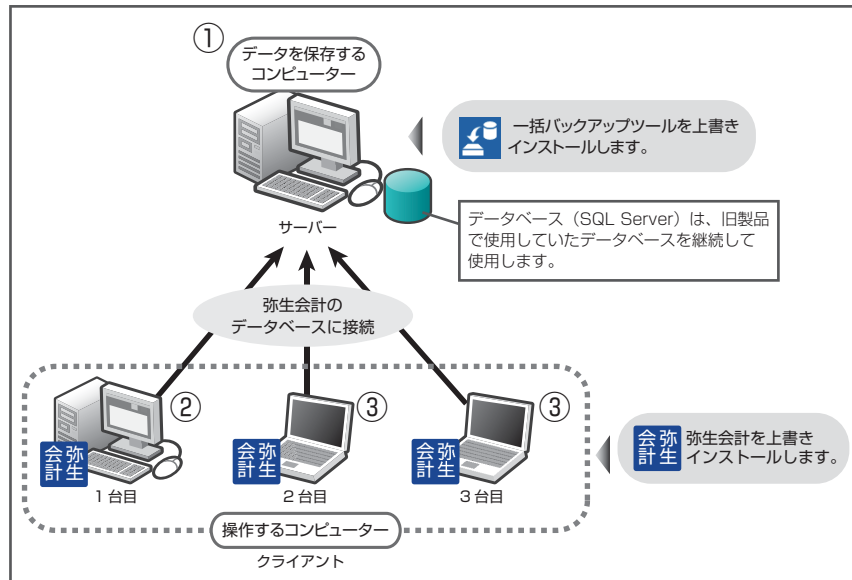
弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。

**設定し忘れにご注意ください**

データベースのログインパスワード(sa パスワード)の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

3-2 弥生会計ネットワークの場合

「データを保存するコンピューター(サーバー)」のセットアップが完了後、「操作するコンピューター(クライアント)」のセットアップを行ってください。

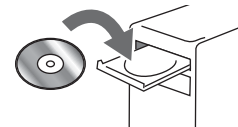


👉 セットアップ手順

① データを保存するコンピューター (サーバー)

1 弥生会計の DVD-ROM をセット

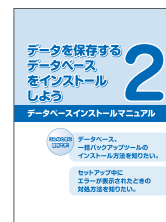
弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



2 一括バックアップツールのインストール

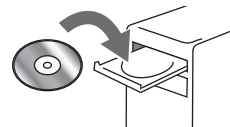
データベースに保存された複数の事業所データを一括してバックアップすることができ一括バックアップツールをインストールします。一括バックアップツールでは、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。

インストール方法については、別冊『データベースインストールマニュアル』-「第2章 データベースのセットアップ」を参照してください。操作方法については、ヘルプを参照してください。



② 操作するコンピューター（クライアント）：1 台目**1 弥生会計の DVD-ROM をセット**

弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。

**2 弥生会計のインストール → P35**

弥生会計をインストールします。

3 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証(P42)を行います。
ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

4 弥生会計とデータベースの接続設定（sa パスワードの設定）→ P53

弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。

**設定し忘れにご注意ください**

データベースのログインパスワード(sa パスワード)の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

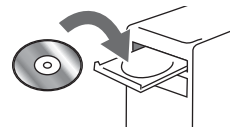
5 事業所データのコンバート → P58

旧製品の事業所データをコンバート(変換)して、弥生会計 19 で使用できるデータに置き換えます。

③ 操作するコンピューター（クライアント）：2 台目以降

1 弥生会計の DVD-ROM をセット

弥生会計の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



2 弥生会計のインストール → P35

弥生会計をインストールします。

3 弥生会計の起動 → P41

弥生会計 19 を起動して、ライセンス認証(P42)を行います。
ライセンス認証を行わない場合は、複数台のコンピューターでの運用ができないなど、一部の使用が制限されます。

4 弥生会計とデータベースの接続設定（sa パスワードの設定）→ P53

弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。



設定し忘れにご注意ください

データベースのログインパスワード(sa パスワード)の設定し忘れにご注意ください。設定していない場合は、「サーバーにアクセスできませんでした」のエラーメッセージが表示され、弥生会計を使用できません。

2

インストール前の確認

弥生会計 19 を使用するためのシステムや注意事項、
セットアップの流れについて説明します。

1 必要なハードウェアとソフトウェア	24
2 弥生会計のシステム構成	29
3 コンピューター名の確認	32

1 必要なハードウェアとソフトウェア

弥生会計を使用するには、次のハードウェアやソフトウェアが必要です。

< 弥生会計 プロフェッショナル 2 ユーザー版の場合 >

日本語 OS	Microsoft Windows 10 / 8.1 / 7 ※Windows RT8.1/7 SP なしは除く
対応機種 (パソコン本体)	上記、日本語 OS が稼働するパーソナルコンピューター インテル Core 2 Duo 以上または同等の性能を持つプロセッサ
Web ブラウザー	Microsoft Internet Explorer または Microsoft Edge(必須) ※Web ブラウザーは、各 OS でサポートされている最新のバージョンをご利用ください。
メモリ	2GB 以上(64 ビット)/1GB 以上(32 ビット)
ハードディスク	必須空き容量 400MB 以上(データ領域は別途必要) ※インストール時や製品動作時にはシステムドライブに一時ファイル領域が必要です。
動作に必要なソフトウェア	- 本製品の動作には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1、VC++2013 ランタイムが必要です。 ※インストール済みでない場合は本製品のインストール時に同時にインストールされ、300MB 以上の空き容量が別途必要になります。インストール時に、再起動が必要になる場合があります。 - ダウンロードしたPDFマニュアル等を利用するにはAdobe Acrobat Reader DC が必要です。
データベース	Microsoft SQL Server 2014 Express SP2 を本製品のインストーラーからインストールすることができます。 SQL Server 2014 Express SP2 をインストールする際の注意点 - インストールするには、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 および、Microsoft .NET Framework 4.0 以降が必要です。付属の SQL Server 2014 Express SP2 のインストールを行う場合は、上記ソフトウェアもインストールされます。 - インストールする際は、インストール先ドライブに4.2GB以上の空き容量が必要です。 - TCP/IP などのネットワーク設定が正しく行われている必要があります。 1 事業所データの領域として最大 10GB まで使用可能です。 一括バックアップツールをインストールする際の注意点 - インストールする際は、インストール先ドライブに20MB以上の空き容量が必要です。 - 一括バックアップツールの動作には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1、VC++2013 ランタイムが必要です。
インターネット環境	インターネットに接続できる環境が必要です。
その他	日本語 OS について Windows 10 と記載されているものは、Windows 10 Home / Pro / Enterprise の略称です。 Windows 8.1 と記載されているものは、Windows 8.1 / Pro / Enterprise の略称です。(Windows RT8.1 は含みません) Windows 7 と記載されているものは、Windows 7 Ultimate / Enterprise / Professional / Home Premium / Starter の略称です。 国際版・日本語ランゲージパックは動作対象外です。

	64 ビット OS での動作について WOW64 の環境で動作します。 - ディスプレイ 本体に接続可能で、上記日本語 OS に対応したディスプレイ 解像度: 1024×768 以上必須 / 1280×768(WXGA)以上、High Color(16 ビット)以上を推奨 - マウス / キーボード 上記日本語 OS で使用可能なマウス / キーボード - 日本語入力システム 上記日本語 OS に対応した日本語入力システム ※対応している文字コードは、JIS コードの第 1 水準と第 2 水準です。その他の文字 コードについては、代替文字または、ひらがなでご入力ください。 - ディスクドライブ DVD-ROM ドライブ ※製品を DVD-ROM からインストールする場合に必要です。 - プリンター 上記日本語 OS に対応したプリンター ※インクジェットプリンターについては機種および使用できる専用用紙に一部制限が あります。 ※ドットインパクトプリンターの場合は 15 インチ連続用紙が使用できるプリンター が必要です。 - Excel への書き出し機能を利用する場合 集計表などのデータを Excel に書き出す場合は、Microsoft Excel 2010 以降が 別途必要です。 - データ送受信機能を利用する場合 事業所データを電子メールに添付して送信する場合は、Microsoft Outlook 2010 以降が通常使用する電子メールのプログラムとして設定されている必要があります。 ※Windows 10 / 8.1 標準メールでは「メール送信」機能が動作しません。 - Office 365 について Office 365 のオンライン版(Office Online)には対応していません。 - スマート取引取込を利用する場合 スマート取引取込を利用する場合は、上記日本語 OS と Internet Explorer 11、 Microsoft Edge、Google Chrome、または Mozilla Firefox をご利用ください。 - ネットワーク環境について 有線 LAN での運用を推奨します。 2 台での同時利用には「2 ユーザー」、3 台以上の場合は「ネットワーク」でご利用台 数分のライセンスが別途必要です。
--	---

<弥生会計 ネットワークの場合>

	サーバー	クライアント
日本語 OS	Microsoft Windows Server 2016 Standard/ Essentials(64 ビット) Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard/ Essentials/Foundation(64 ビット) Windows Server 2012 Standard/Essentials/ Foundation(64 ビット) Windows Server 2008 R2 SP1 Standard/ Foundation(64 ビット) Windows Server 2008 SP2 Foundation(64 ビット)/Standard(32 ビット/64 ビット)	Microsoft Windows 10 / 8.1 / 7 ※Windows RT8.1/7 SP なしは 除く

	サーバー	クライアント
対応機種	上記、日本語 OS とデータベース(Microsoft SQL Server)が稼働するパーソナルコンピューター ※サーバー環境上で弥生製品を動作させる場合は、インテル Core 2 Duo 以上または同等の性能を持つプロセッサ ※仮想環境でご利用になる場合、技術的なサポートは対象外となります。	上記、日本語 OS が稼働するパーソナルコンピューター インテル Core 2 Duo 以上または同等の性能を持つプロセッサ
Webブラウザ	Microsoft Internet Explorer または Microsoft Edge(必須) ※Web ブラウザーは、各 OS でサポートされている最新のバージョンをご利用ください。	
メモリ	1GB 以上(4GB 以上を推奨)	2GB 以上(64 ビット)/1GB 以上(32 ビット)
ハードディスク	Microsoft SQL Server 2014 Standard SP2 をインストールする場合、6GB 以上の空き容量が必要です。(データ領域は別途必要) ※インストール時や製品動作時にはシステムドライブに一時ファイル領域が必要です。	必須空き容量 400MB 以上 ※インストール時や製品動作時にはシステムドライブに一時ファイル領域が必要です。
動作に必要なソフトウェア	- 本製品の動作には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1、VC++2013 ランタイムが必要です。 ※インストール済みでない場合は本製品のインストール時に同時にインストールされ、300MB以上の空き容量が別途必要になります。インストール時に、再起動が必要になる場合があります。 - ダウンロードした PDF マニュアル等を利用するには Adobe Acrobat Reader DC が必要です。	
データベース	Microsoft SQL Server 2017 / 2016 SP2 / 2014 SP2 / 2012 SP4 / 2008 R2 SP3 / 2008 SP4 with SQL 製品同梱の DVD-ROM から Microsoft SQL Server 2014 Standard SP2 をインストールすることができます。 for SQL 製品の場合は別途、本製品に対応した SQL Server が必要です。また、あらかじめ弥生製品用のインスタンスを作成する必要があります。作成方法については、製品マニュアルを必ずご参照ください。 SQL Server 2014 Standard SP2 をインストールする際の注意点 - with SQL 製品に同梱されている Microsoft SQL Server Standard は、弥生以外のアプリケーションでの使用、テーブルの追加などはできません。また、16コアを超えるサーバーでの使用はできません。 - インストールするには、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 および、Microsoft .NET Framework 4.0以降が必要です。with SQL 製品に同梱の SQL Server Standard をインストールする際には、上記ソフトウェアもインストールされます。 - インストールする際は、インストール先ドライブに 6GB 以上の空き容量が必要です。 - TCP/IP などのネットワーク設定が正しく行われている必要があります。	TCP/IP などのネットワーク設定が正しく行われている必要があります。

	サーバー	クライアント
	一括バックアップツールをインストールする際の注意 点 - インストールする際は、インストール先ドライブに 20MB 以上の空き容量が必要です。 - 一括バックアップツールの動作には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1、VC++2013 ランタイムが必要です。	
インターネット環境	インターネットに接続できる環境が必要です。	
その他	- 日本語 OS について Windows 10 と記載されているものは、Windows 10 Home / Pro / Enterprise の略称です。 Windows 8.1 と記載されているものは、Windows 8.1 / Pro / Enterprise の略称です。(Windows RT8.1 は含みません) Windows 7 と記載されているものは、Windows 7 Ultimate / Enterprise / Professional / Home Premium / Starter の略称です。 国際版・日本語ランゲージパックは動作対象外となります。 64 ビット OS での動作について WOW64 の環境で動作します。 - ディスプレイ 本体に接続可能で、上記日本語 OS に対応したディスプレイ 解像度: 1024×768 以上必須 / 1280×768(WXGA)以上、High Color(16 ビット)以上を推奨 - マウス / キーボード 上記日本語 OS で使用可能なマウス / キーボード - 日本語入力システム 上記日本語 OS に対応した日本語入力システム ※対応している文字コードは、JIS コードの第 1 水準と第 2 水準です。その他の文字コードについては、代替文字または、ひらがなで入力ください。 - ディスクドライブ DVD-ROM ドライブ ※製品を DVD-ROM からインストールする場合に必要です。 - プリンター 上記日本語 OS に対応したプリンター ※インクジェットプリンターについては機種および使用できる専用紙に一部制限があります。 ※ドットインパクトプリンターの場合は 15 インチ連続用紙が使用できるプリンターが必要です。 - Excel への書き出し機能を利用する場合 集計表などのデータを Excel に書き出す場合は、Microsoft Excel 2010 以降が別途必要です。 - データ送受信機能を利用する場合 事業所データを電子メールに添付して送信する場合は、Microsoft Outlook 2010 以降が通常使用する電子メールのプログラムとして設定されている必要があります。 ※Windows 10 / 8.1 標準メールでは「メール送信」機能が動作しません。 - Office 365 について Office 365 のオンライン版(Office Online)には対応していません。 - スマート取引取込を利用する場合 スマート取引取込を利用する場合は、上記日本語 OS と Internet Explorer 11、Microsoft Edge、Google Chrome、または Mozilla Firefox でご利用ください。 - ネットワーク環境について 有線 LAN での運用を推奨します。ご利用台数分のライセンスが必要です。	

- 詳細については弥生ホームページをご覧ください。
- 弥生会計を使用するには、次のユーザー権限が必要です。
標準ユーザー (Users グループ) 以上
- 仕訳の推奨処理データ量は年間最大 100,000 仕訳行数 (履歴を含む) です。



印刷に関する注意

弥生会計で印刷を行った際に以下のような現象が発生した場合、お使いのプリンターまたは、プリンタードライバーが原因の可能性があります。最新のプリンタードライバーを入手してください。詳細はプリンターのマニュアルを参照するか、プリンターメーカーにお問い合わせください。

- 罫線が欠落する、または罫線がずれる
- 網かけが途中で途切れる、または塗りつぶされる
- 特定の箇所だけ印字されずに抜けてしまう
- 特定の文字列で文字化けが起こる
- 印字位置がずれて次ページに送られてしまう

ネットワーク上のプリンターを利用する場合の設定方法は、Windows のヘルプやマニュアルを参照してください。

PDF ファイルの作成には「Microsoft XPS Document Writer」が必要です

印刷ダイアログで「PDFファイルの作成」を選択してPDFを作成するには、プリンターの一覧に「Microsoft XPS Document Writer」が登録されている必要があります。「Microsoft XPS Document Writer」がない場合は「プリンターの追加」で追加してください。プリンターの追加方法については Windows のヘルプを参照してください。

2 弥生会計のシステム構成

弥生会計プロフェッショナル2ユーザー、弥生会計ネットワークでは、弥生会計の事業所データへ複数台のコンピューターから同時に接続して、伝票入力や帳票出力を行うことができます。

複数台のコンピューターから弥生会計を使用するためには、コンピューターを「サーバー」と「クライアント」に役割を分担して、各コンピューターにプログラムをセットアップする必要があります。どのコンピューターを「サーバー」「クライアント」にするのか弥生会計をインストールする前に決めておきましょう。

サーバーとクライアント

本書では、次の役割をするコンピューターを「サーバー」または「クライアント」と記載しています。

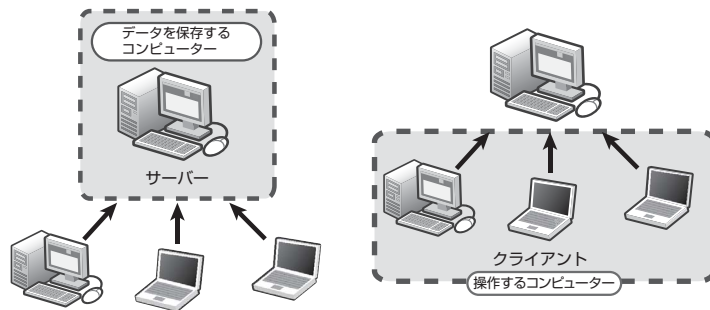
- サーバー

弥生会計のデータを保存するためのデータベースがインストールされているコンピューターをサーバーといいます。弥生会計のデータを保存する役割をします。サーバーには、スペック(性能)の高いコンピューターを使用することをお勧めします。

※ 弥生会計ネットワークの場合は、サーバー用の OS を搭載したコンピューターを使用してください。対応 OS については、「必要なハードウェアとソフトウェア」(P24)を参照してください。

- クライアント

サーバーのデータベースにアクセスして、弥生会計を操作するコンピューターをクライアントといいます。弥生会計を操作する役割をします

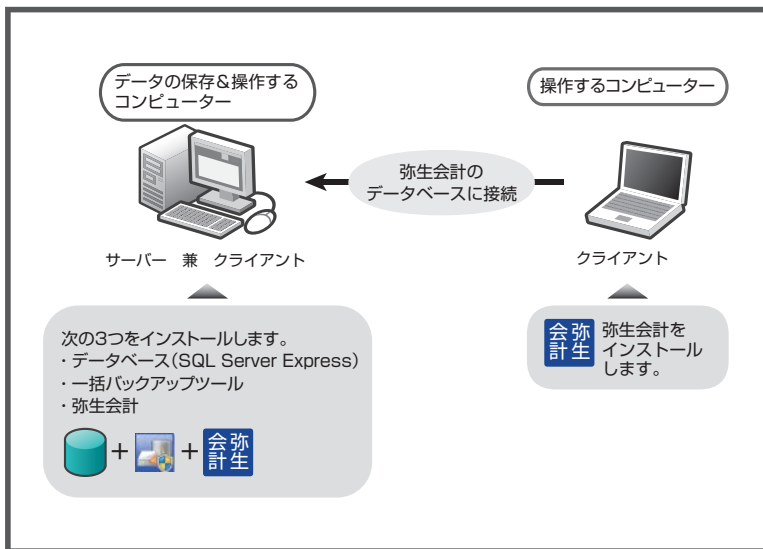


まずは、「データを保存するコンピューター（サーバー）」と「操作するコンピューター（クライアント）」を決めましょう。



2-1 弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーのシステム構成

弥生会計で使用するコンピューターを 2 台決めます。



1 台を「データの保存&操作するコンピューター(サーバー兼クライアント)」、残りの 1 台を「操作するコンピューター(クライアント)」として使用します。

● データの保存&操作するコンピューター(サーバー兼クライアント)

弥生会計の「データを保存するコンピューター(サーバー)」と「弥生製品を操作するコンピューター(クライアント)」の 2 つの役割を担います。

このコンピューターには、「データベース(SQL Server Express)」「一括バックアップツール」「弥生会計」をインストールします。

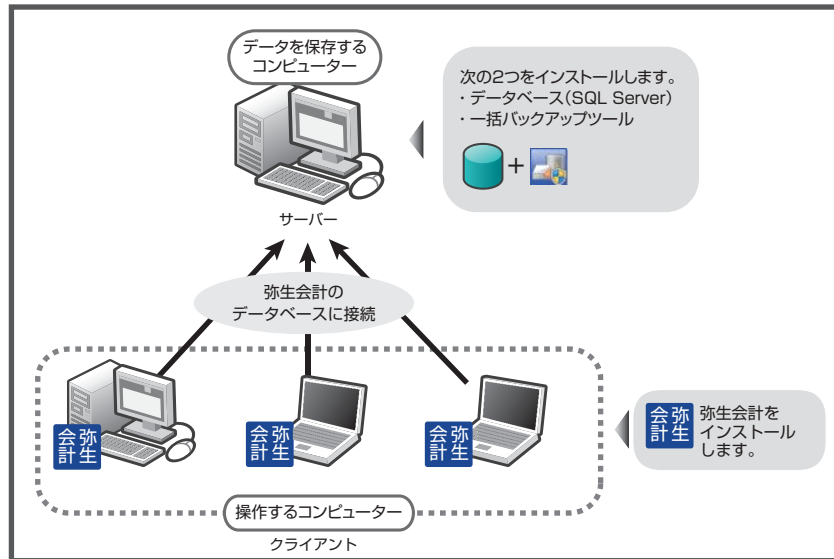
● 操作するコンピューター(クライアント)

弥生会計を操作するコンピューターとして使用します。

このコンピューターには、「弥生会計」のみをインストールします。

2-2 弥生会計ネットワークのシステム構成

複数台のクライアントコンピューターから、サーバーに保存されている弥生会計のデータベースに接続します。これにより、複数台のコンピューターから同じデータに対して、伝票入力や帳票出力などの作業を同時に行うことができます。



弥生会計ネットワークでは 1 台を「データを保存するコンピューター(サーバー)」、残りのコンピューターを「操作するコンピューター(クライアント)」として使用します。

● データを保存するコンピューター(サーバー)

弥生会計のデータを保存するための専用コンピューター(サーバー)として使用します。このコンピューターには、「データベース(SQL Server)」「一括バックアップツール」をインストールします。

● 操作するコンピューター(クライアント)

弥生製品を操作するコンピューターとして使用します。
このコンピューターには、「弥生会計」のみをインストールします。

3 コンピューター名の確認

コンピューター名の確認方法について説明します。

弥生製品の各設定時に、コンピューター名の入力または選択が、必要になることがあります。コンピューター名を確認しておきましょう。

☞ コンピューター名を確認する

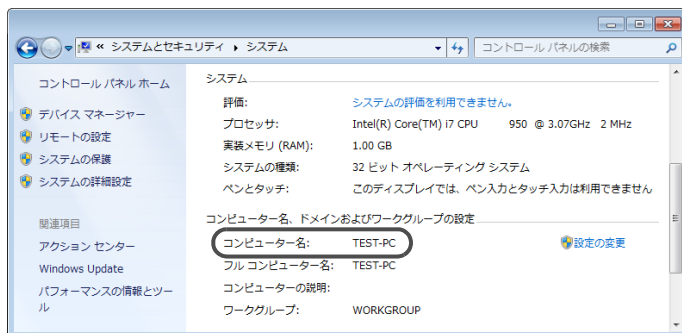
1. データベースが保存されているコンピューター(サーバー)を起動します。

2. コントロールパネルを表示します。

Windows 10/8.1/Windows Server 2016/2012 R2/2012 の場合:
[スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、
[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。
Windows 7/Windows Server 2008 R2/2008 の場合:[スタート]ボタンをクリックして[コントロールパネル]をクリックします。

3. [システムとセキュリティ](または[システムとメンテナンス]、[パフォーマンスとメンテナンス])をクリックして、[システム]をクリックします。

4. コンピューターの名前を確認します。



表示されたシステム画面の[コンピューター名]に表示されているのが、コンピューター(サーバー)の名前です。

5. 確認したコンピューター名を「覚書(メモ)」(P2)に記入しておきます。

例えば、[コンピューター名]に[TEST-PC]と表示されている場合の事業所データが保存されているコンピューター(サーバー)の名前は、「TEST-PC」です。

3

データベースのインストール

データを保存するコンピューター(サーバー)にデータベースをインストールします。

1 データベースのインストール	34
-----------------------	----

1 データベースのインストール

弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー、または弥生会計ネットワークを初めて導入する場合は、弥生会計の事業所データを保存するコンピューター（サーバー）に、データベースをインストールする必要があります。



メモ

データベースをインストールするコンピューター

データベースは、次のコンピューターにインストールします。

- 弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーの場合
P30の図「データの保存&操作するコンピューター（サーバー兼クライアント）」
- 弥生会計ネットワークの場合
P31の図「データを保存するコンピューター（サーバー）」

データベースをインストールした後は、「YAYOI インスタンスの確認」「一括バックアップツールのインストール」を行ってください。

データベースのインストール

日々の会計データを保存するための、
データベース(SQL Server)をインストールします。

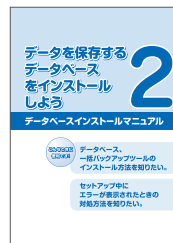
YAYOI インスタンスの確認

データベース(SQL Server)のYAYOI インスタンス
が起動していることを確認します。

一括バックアップツールのインストール

データベースのデータを一括してバックアップする
ことができる一括バックアップツールをインストー
ルします。

詳細は、別冊『データベース
インストールマニュアル』
ー「第 2 章 データベースの
セットアップ」を参照して
ください。



4

弥生会計 19 のインストール

弥生会計 19 をお使いのクライアントコンピューターにインストールします。

この章では、弥生会計 19のインストールと、付属ツールのインストールについて説明します。

1 弥生会計のインストール	36
2 弥生会計の起動	41
3 ライセンス認証と認証解除	42
4 ユーザー登録 <プロフェッショナル 2 ユーザーのみ>	50

1 弥生会計のインストール

操作するコンピュータに「弥生会計 19」をインストールします。



メモ

弥生オンラインアップデートから弥生会計 19 をインストールした場合
＜弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーのみ＞

弥生会計の終了時に表示される「弥生オンラインアップデート」ダイアログから弥生会計 19 をインストールした場合は、DVD-ROM から弥生会計をインストールしていただく必要はありません。（「弥生会計のインストール」の作業は不要です。）

弥生会計 19 がインストールされているかどうかの確認は、次の手順で「バージョン情報」ダイアログを表示して行います。

デスクトップの弥生 マイポータルアイコンをダブルクリックして「弥生マイポータル」を起動します。「弥生会計(やよいの青色申告)」メニューの「サポートツール」－「バージョン情報」をクリックします。

新しいコンピュータへの移行について

弥生会計(プログラム)や事業所データを、別のコンピュータに移行する方法については、弊社ホームページの「新しいコンピュータへの移行」を参照してください。

弥生会計のDVD-ROMをお持ちでない方のために、プログラムを入手する方法も説明しています。

www.yayoi-kk.co.jp/ist/account/help/ikou.html

インストールする前に

弥生会計をインストールする前に、次の項目を確認してください。

- ハードディスクの空き容量

ハードディスクの空き容量が 400MB 以上必要(データ領域は別途必要)です。なお、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 をインストールする場合は、別途 300MB 以上の空き容量が必要になります。空き容量が足りない場合は、不要なファイルを削除するなどして空き容量を確保してからインストールしてください。

- インストールするユーザーの権限

インストールするコンピュータの管理者権限を持っている方がインストールしてください。

- 現在、弥生会計を使用している場合

弥生会計 19 をインストールしても、現在使用中のデータが削除されることはありません。

ただし、インストール中のトラブルに備えて、インストール前に現在使用しているデータのバックアップファイルを作成してください。バックアップファイルの作成方法については、ご使用の製品のマニュアルを参照してください。



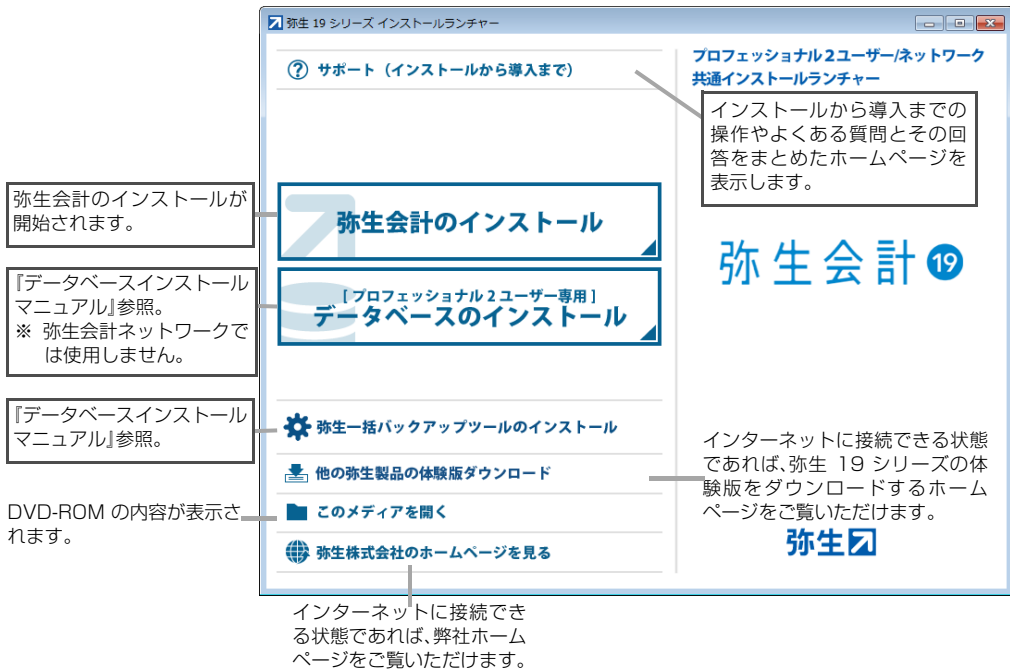
メモ

Windows 10/8.1 をご使用の場合はインストール時にインターネットへの接続が必要です

Windows 10/8.1 をご使用の場合、.NET Framework 3.5 SP1 は Windows Update を通じて提供されるため、インストール時にインターネットに接続している必要があります。

弥生 19 シリーズ インストールランチャー

DVD-ROM ドライブに弥生会計のDVD-ROMをセットすると、[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されます。弥生会計はこの画面からインストールします。



メモ

[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されない場合
次の手順でインストールランチャーを表示してください。

1. エクスプローラーを表示します。
デスクトップを表示して、タスクバーの[エクスプローラー]ボタンをクリックします。
2. 弥生会計 19 の DVD-ROM をセットしたドライブのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから[開く]をクリックします。
3. [yayoi19] ファイルをダブルクリックします。

☞ 弥生会計 19 をインストールする

インストールを始める前に、すべてのプログラムを終了してください。特に、常駐プログラムが動作していると、正しくインストールできないことがあります。

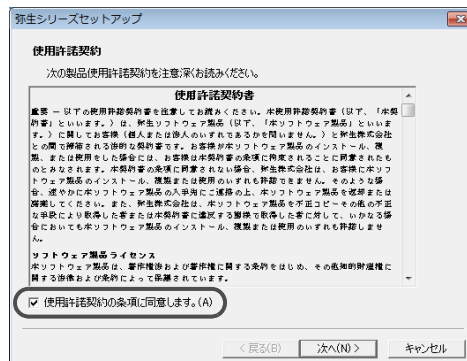
1. DVD-ROM ドライブに弥生会計の DVD-ROM をセットします。
[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されます。
2. [弥生会計のインストール]をクリックします。
3. 表示された[弥生シリーズセットアップ]画面で、[インストール開始]ボタンをクリックします。
表示される項目は、コンピューターの OS や環境により異なります。



再起動を促すメッセージが表示された場合

インストールの途中で再起動を促すメッセージが表示された場合は、DVD-ROM を取り出さずに指示に従って再起動し、インストール開始時と同じユーザーで Windows にログインしてください。ログイン後は[弥生シリーズセットアップ]画面が自動的に表示されるので、[インストール開始]ボタンをクリックして、インストールを再開します。

4. 使用許諾契約内容を確認し、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



5. ユーザー名と会社名を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

両方の入力が必要です。

ここで入力するユーザー名と会社名はインストールで必要となる情報です。
弥生会計のデータでは使用されません。

弥生シリーズセットアップ

ユーザー情報

情報を入力してください。

ユーザー名、および会社名を入力してください。

ユーザー名(U):
弥生 太郎

会社名(C):
株式会社 弥生トレーディング

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. 弥生会計をインストールする場所(フォルダー)を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

インストール先を変更する場合は、[変更]ボタンをクリックしてインストールする場所を選択します。

弥生シリーズセットアップ

インストール先の選択

セットアップがファイルをインストールするフォルダーを選択してください。

このフォルダーにインストールする場合、「次へ」をクリックしてください。別のフォルダーにインストールする場合は、「変更」をクリックします。

弥生会計 19のインストール先:
C:\Program Files (x86)\Yayoi\ 変更(O)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. [インストール]ボタンをクリックしてインストールを開始します。

.NET Framework 3.5 SP1 をインストールする場合、インストールが完了するまで 30 分程度かかる場合があります。

弥生シリーズセットアップ

プログラムをインストールする準備ができました

ウィザードは、インストールを開始する準備ができました。

「インストール」をクリックして、インストールを開始してください。

インストールの設定を参照したり変更する場合は、「戻る」をクリックしてください。
「キャンセル」をクリックすると、ウィザードを終了します。

【所得税確定申告モジュールの使用について】
所得税確定申告モジュールの使用については、製品インストール時に同意いただいた使用許諾契約書の条項が適用されます。

インストール中にWindowsの再起動が必要となる場合があります。
再起動を要する画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。
画面の指示に従っていないことで、再起動前に正常にインストールが再開されます。

< 戻る(B) インストール(I) キャンセル

8. インストールが終了したら、[弥生シリーズセットアップ]画面が表示されるので、[完了]ボタンをクリックします。



9. 再起動を促す画面が表示された場合は、必ず再起動してください。

10. DVD-ROM ドライブから DVD-ROM を取り出します。

インストールが終わったら、必ず[弥生シリーズセットアップ]画面を閉じてから DVD-ROM ドライブから DVD-ROM を取り出してください。

2 弥生会計の起動

弥生会計の起動

弥生会計は、弥生 マイポータルから次の手順で起動します。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。[ホーム]メニューの[使いはじめる]－[弥生会計]をクリックします。



弥生会計を初めて起動した場合

必要に応じて次の画面が表示されます。また、最初は起動に時間がかかることがあります。

- [ライセンス認証]画面(P42)
- ユーザー登録画面(P50)
- データコンバータ(旧製品をご使用の場合のみ)(P59)

弥生 マイポータル

弥生 マイポータルでは、弥生製品の起動や、サポート(使い方・FAQ)などのWeb サイトへのアクセスができます。また、接続設定やサポートのお問い合わせなどのサポートツールも利用できます。



セキュリティプログラムの警告メッセージが表示される場合

弥生会計の起動時にセキュリティプログラムの警告メッセージが表示された場合は、弥生製品に関するプログラムの通信を許可してください。

許可するプログラムについては、以下の Web ページを参照してください。
support.yayoi-kk.co.jp/ydt/common/account/manual_03

「サポートツール」フォルダー

「サポートツール」フォルダーには、マニュアルやサンプルデータなどを開くためのショートカットが用意されています。このフォルダーは、次の手順で表示します。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。[弥生会計]メニューの[サポートツール]－[その他のサポートツール]をクリックします。

3 ライセンス認証と認証解除

3-1 ライセンス認証について

弥生会計をご使用いただくには、正規の製品であることを確認する必要があります。ライセンス認証は、不正利用を防止する技術で、弥生会計が正規にライセンスされたソフトウェアであることを確認するためのものです。また、1 台のコンピュータにつき 1 つのライセンスが必要です。ライセンス認証の手続きは、弥生会計の初回起動時から 30 日以内に行ってください。

弥生会計のインストール後にライセンス認証を行わないと、以下の制限が発生します。

- 初回起動時から 30 日が経過すると、弥生会計を使用できなくなります。
- 起動時に[ライセンス認証]画面が毎回表示されます。
- [決算・申告]メニューの機能が使用できません。
- 複数台での運用を行うことができません。

30 日を経過した場合でも、起動時に表示される[ライセンス認証]画面でライセンス認証を行うことにより、引き続き弥生会計を使用することができますが、ライセンス認証はインストール後すぐに行うようにしてください。



コンピューターを買い替える場合などには認証解除を行ってください

弥生会計をアンインストール(削除)する場合だけでなく、不具合などによりコンピューターをフォーマットする場合や、買い替えなどによりコンピューターを入れ替える場合も事前にライセンス認証の解除が必要です。解除を行ってから製品のアンインストール(削除)やフォーマット、新しいコンピューターへの入れ替えを行ってください。

→ライセンス認証の解除(P47)

3-2 ライセンス認証

ライセンス認証では、ライセンス認証サーバーへの接続のため、インターネットへの接続確認を必ず行います。インターネットを利用していない場合は、接続確認を行った後に表示される画面を経て、インターネットを使わない方法でライセンス認証を行うこともできます。

→インターネットに接続できない場合(P45)



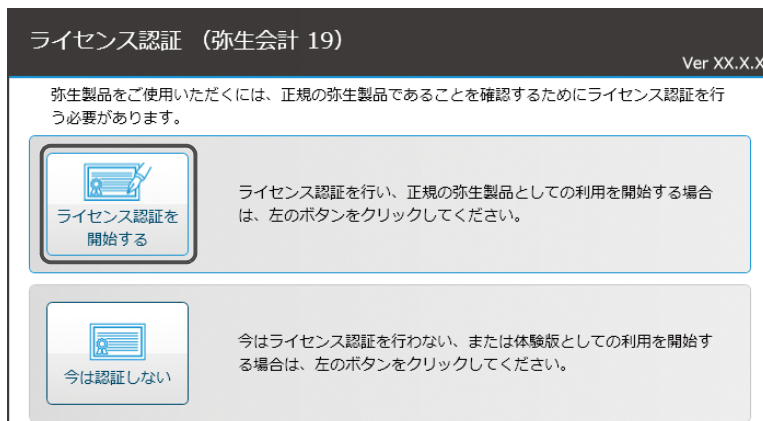
弥生 ライセンス認証管理でライセンス認証を行う

弥生製品のライセンス認証は、弥生 ライセンス認証管理を次の手順で起動して行うこともできます。弥生 ライセンス認証管理では、複数の弥生製品のライセンス認証を連続的に行うこともできます。
デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。画面右上の歯車のアイコン(設定メニュー)から[弥生 ライセンス認証管理]をクリックします。



ライセンス認証を行う<弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーの場合>

1. [ライセンス認証]画面で[ライセンス認証を開始する]ボタンをクリックします。



弥生製品登録番号の入力画面が表示されます。



弥生会計 11 以降がインストールされている場合

弥生会計 11 以降がインストールされている場合は、弥生製品登録番号などの情報を引き継ぎ、入力画面を表示せずにインターネットへの接続を行います。引き継いだ情報でライセンス認証が行えない場合は、改めて入力画面が表示されます。

2. 弥生製品登録番号などを入力します。

番号は、入力欄の下に表示されている「弥生製品登録番号の確認方法」で確認できます。

ライセンス認証 (弥生会計 19)

弥生製品登録番号を入力してください。

弥生製品登録番号

弥生製品登録番号の確認方法

店頭で購入した製品および弊社より発送した製品は、ディスクのケースまたはパッケージに同梱されている文書で確認できます。ダウンロード販売で購入した製品は、購入時の電子メールで確認できます。ユーザー登録が完了している製品や弊社より発送した製品は、[マイポータル \(Web\)](#) でも確認できます。

入力欄の下に、番号の確認方法が表示されます。

弥生会計の弥生製品登録番号を入力し、正しい番号であることが確認されると、「製品シリアル番号」の入力画面、「お客様番号」の入力画面、「入手方法の選択」画面のいずれかが表示されます。

入手方法の選択画面が表示された場合は、画面の説明を確認し、入手方法を選択すると選択に応じて、「製品シリアル番号」の入力画面または「お客様番号」の入力画面が表示されます。



⚠ が表示された場合

入力した番号に誤りがあると、入力欄が赤くなり、⚠ と説明文が表示されます。この場合は、入力内容を再確認してください。

3. [処理を開始する]ボタンをクリックします。

必要な情報をすべて入力すると[処理を開始する]ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、インターネットへの接続確認を行った上でライセンス認証サーバーに接続し、ライセンス認証が行われます。

ライセンス認証 (弥生会計 19) Ver XX.X.X

弥生製品登録番号 ✓

製品シリアル番号 ✓

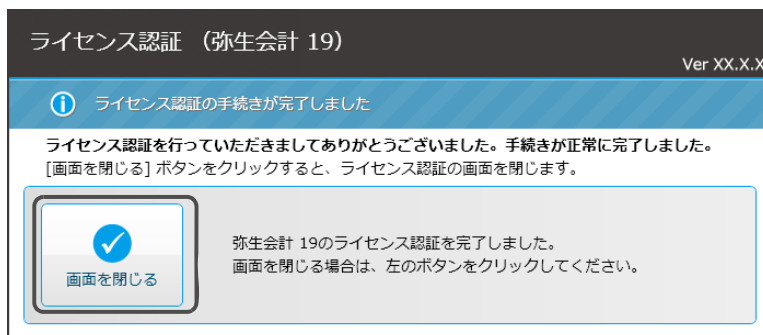
場合により、画面に表示される項目は異なります。

ライセンス認証の処理を開始する前に、製品登録番号と製品シリアル番号を再確認してください。再確認が終わったら、[処理を開始する] ボタンをクリックしてください。

処理を開始する

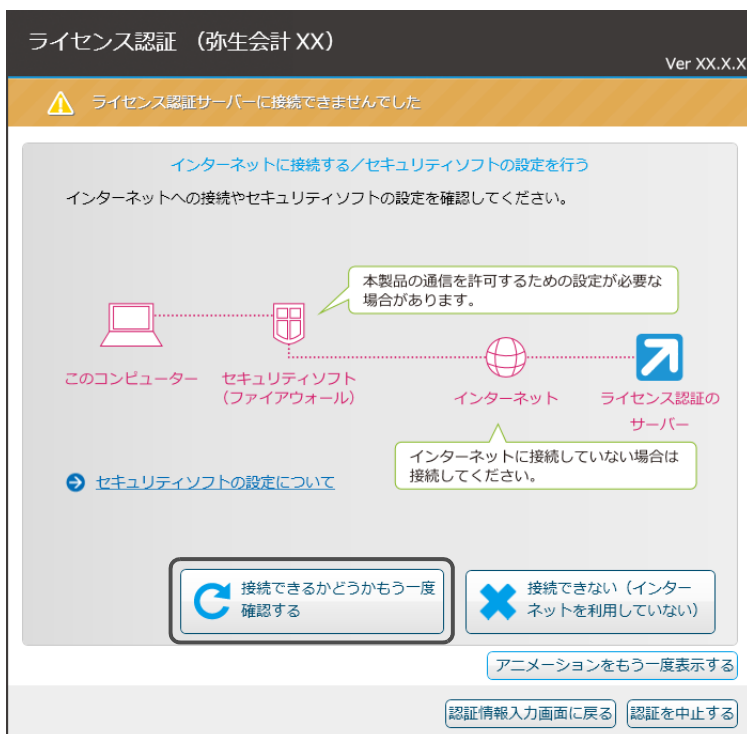
4. [画面を閉じる]ボタンをクリックします。

「ライセンス認証の手続きが完了しました」と表示されたら、[画面を閉じる]ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



インターネットに接続できない場合

ライセンス認証は、インターネットを通じてライセンス認証サーバーに接続します。サーバーに接続できない場合、[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面が表示されるので、画面の説明に従って、インターネットへの接続やセキュリティプログラムの設定の確認を行い、[接続できるかどうかもう一度確認する]ボタンをクリックします。



[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合

[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面で[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合、認証方法を選択する画面が表示されます。画面の説明を参考に、認証方法を選択してください。

👉 ライセンス認証を行う＜弥生会計ネットワークの場合＞

1. [ライセンス認証]画面で[ライセンス認証を開始する]ボタンをクリックします。

弥生製品登録番号の入力画面が表示されます。

2. 弥生製品登録番号を入力します。

番号の確認方法は、入力欄の下に表示されます。



⚠️が表示された場合

入力した番号に誤りがあると、入力欄が赤くなり、⚠️と説明文が表示されます。この場合は、入力内容を再確認してください。

3. [画面を閉じる]ボタンをクリックします。

「ライセンス認証の手続きが完了しました」と表示されたら、[画面を閉じる]ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

3-3 ライセンス認証の解除

弥生会計をアンインストール(削除)する場合には、事前にライセンス認証の解除が必要です。解除を行う前に弥生会計をアンインストール(削除)すると、別のコンピュータで弥生会計を使用できなくなります。

ライセンス認証の解除が必要なケース

ライセンス認証の解除は、以下のような場合に行います。これらの作業を行う前にライセンス認証の解除を行ってください。

- 弥生会計をアンインストール(削除)する場合
- コンピューターを買い替えて、弥生会計を新しいコンピュータにインストールする場合
- 弥生会計を他のコンピュータにインストールし直す場合
- Windows を再インストール(またはリカバリー)する場合
- コンピューターをフォーマット(初期化)する場合

ライセンス認証の解除を行う



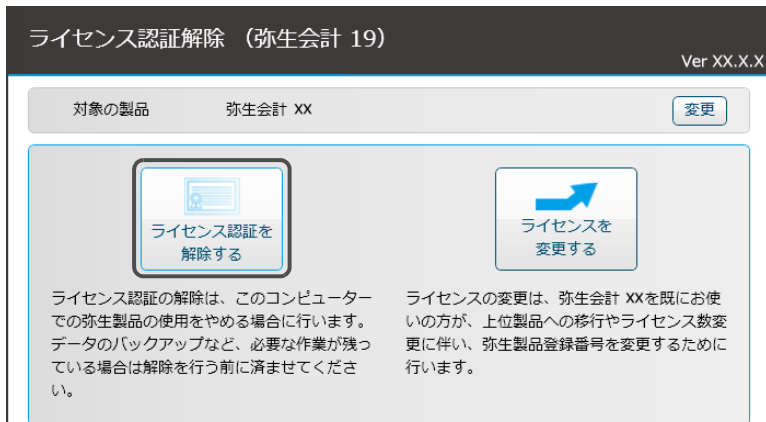
ライセンス認証を解除する前に

ライセンス認証の解除を行うと、弥生会計を使用できなくなります。ライセンス認証の解除を行う前には、事業所データのバックアップなど必要な作業を行ってください。

1. デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックします。
[弥生 マイポータル]が起動します。
2. 画面右上の歯車のアイコン(設定メニュー)から[弥生 ライセンス認証管理]をクリックします。
[弥生 ライセンス認証管理]が起動します。
3. [弥生会計 19] ボタン上に「認証済」と表示されていることを確認して、
[弥生会計 19] ボタンをクリックします。
[弥生会計 19] ボタン上に「未承認」と表示されている場合は、ライセンス認証を解除済みです。以降の手順は必要ありません。

4. [ライセンス認証を解除する]ボタンをクリックします。

ライセンス認証サーバーに接続し、ライセンス認証解除が行われます。



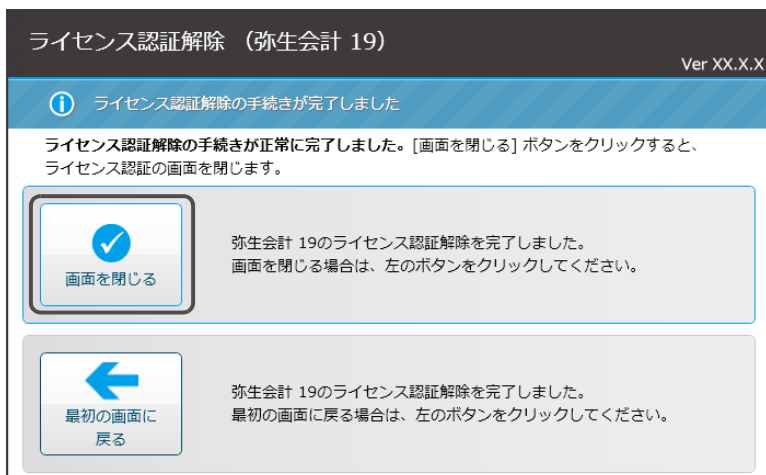
ライセンスの変更

上位製品への移行やライセンス数の変更に伴い新しい弥生製品登録番号が発行された場合は、この画面で[ライセンスを変更する]ボタンをクリックしてライセンスの変更を行うことができます。

ライセンスの変更では、ライセンス認証の解除と新しい弥生製品登録番号によるライセンス認証を一連の手順で行います。

5. [画面を閉じる]ボタンをクリックします。

「ライセンス認証解除の手続きが完了しました」と表示されたら、[画面を閉じる]ボタンをクリックして、画面を閉じてください。





インターネットに接続できない場合

ライセンス認証解除は、インターネットを通じてライセンス認証サーバーに接続します。サーバーに接続できない場合、[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面が表示されるので、画面の説明に従って、インターネットへの接続やセキュリティプログラムの設定の確認を行い、[接続できるかどうかもう1度確認する]ボタンをクリックします。



[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合

[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面で[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合、認証解除方法を選択する画面が表示されます。画面の説明を参考に、認証解除方法を選択してください。

4 ユーザー登録

<プロフェッショナル2 ユーザーのみ>

ユーザー登録が行われていない場合、ライセンス認証完了後や弥生会計の起動後にユーザー登録画面が表示されます。ユーザー登録は、インターネットへ接続できる場合はインターネットを通じて、接続できない場合は電話で行うことができます。弥生製品を複数ご利用の場合は、製品ごとにユーザー登録が必要です。



ユーザー登録が不要な場合

弥生ストアで購入した製品や、あんしん保守サポートによって入手した製品をお使いの場合は、ユーザー登録がありません。



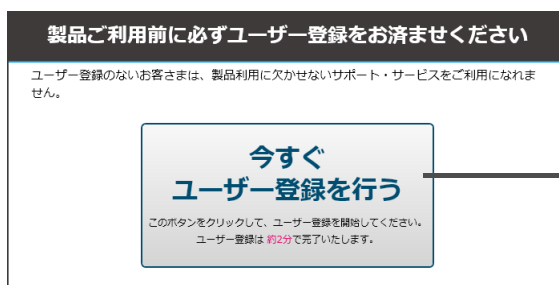
ユーザー登録を行う

1. 弥生会計を起動します(P41)。

ユーザー登録画面が表示されます。

※ [弥生ライセンス認証] 画面が表示された場合は、ライセンス認証の手続きを行ってください(P43)。

2. 画面の指示に従ってユーザー登録を行います。



「今すぐユーザー登録を行う」ボタンをクリックして、ユーザー登録を開始します。

ユーザー登録完了後には、お客様番号などが発行され、「登録完了のお知らせ」が通知されます。



インターネットに接続していない場合

インターネットに接続していないなどの理由で弥生のサーバーに接続できない場合、ユーザー登録の状態が確認できないため、ユーザー登録画面が一定回数の起動時に表示されます。また、この場合はユーザー登録画面に電話でユーザー登録を行う方法の案内が表示されます。

5

データベースへの接続設定

弥生会計を使用するには、弥生会計と事業所データを保存するデータベースを指定して、弥生会計とデータベースを接続する必要があります。弥生会計とデータベースの接続設定について説明します。

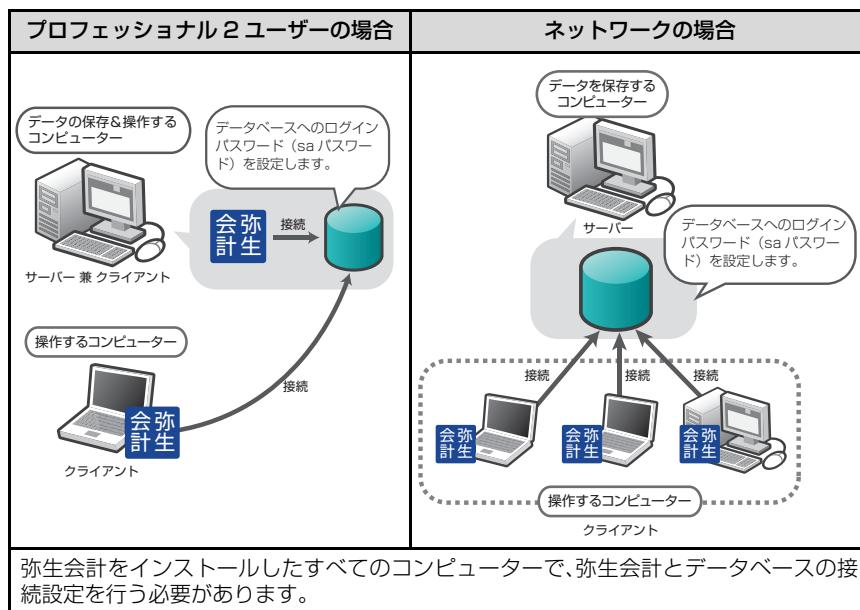
- 1 弥生会計とデータベースの接続設定 52
- 2 ログインパスワード(sa パスワード)の設定 53

1 弥生会計とデータベースの接続設定

データベースと弥生会計をインストールした後は、弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定を行います。

弥生会計とデータベースの接続設定を行うと、接続したデータベースに日々の会計データを管理する事業所データが保存されるようになります。

複数台のコンピュータで弥生会計を使用している場合には、すべてのクライアントコンピュータで弥生会計とデータベースの接続設定が必要です。



弥生会計とデータベースを結びつけるための接続設定では、sa パスワードを入力します。sa パスワードとは、データベースのインストール時に指定したパスワードです。

弥生会計とデータベースを接続する設定方法については、「ログインパスワード (sa パスワード) の設定」(P53)を参照してください。

2 ログインパスワード(sa パスワード)の設定

弥生会計とデータベースを接続するには、[サーバーの設定] ダイアログで、データベースをインストールしたコンピューター(サーバー)を指定して、データベースのインストール時に設定した sa パスワードを入力します。



準備しておきましょう

手順を行う前に、次の内容を準備しておきましょう。
「覚書(メモ)」(P2)も参考にしてください。

- データベースをインストールしたコンピューター(サーバー)の
コンピューター名
→ コンピューター名の確認 (P32)
- データベースの sa パスワード
データベースのインストール時に設定したパスワード
→ 『データベースインストールマニュアル』-「第 2 章 データベースの
セットアップ」

sa パスワードを変更した場合<弥生会計ネットワークのみ>

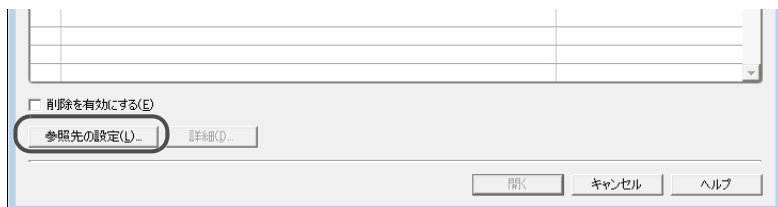
SQL Server Management Studio で sa パスワードを変更した場合は、
ログインパスワードの設定も変更する必要があります。

複数台のコンピューターで弥生会計を使用する場合は、弥生会計をインストールしたすべてのコンピューターで接続設定を行う必要があります。

→弥生会計とデータベースの接続設定(P52)

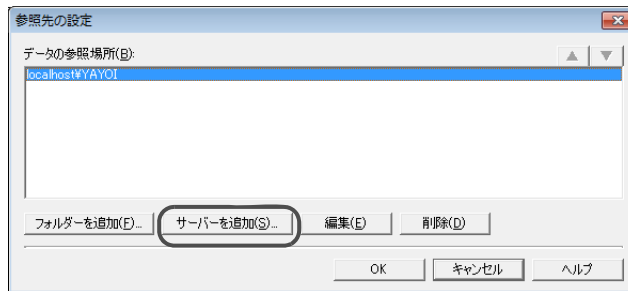
弥生会計とデータベースの接続設定を行う

1. 弥生会計を操作するコンピューター(クライアント)を起動します。
2. 弥生会計を起動します。(P41)
※ サーバーにアクセスできない(設定されていない)などのエラーメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。
3. [ファイル]メニューの[開く]をクリック、またはクイックナビゲータの[事業所データ]カテゴリ(または[スタート]カテゴリ)の[データの選択]をクリックします。
[事業所データの選択] ダイアログが表示されます。
4. [参照先の設定] ボタンをクリックします。
[参照先の設定] ダイアログが表示されます。



5. [サーバーを追加] ボタンをクリックします。

[サーバーの設定] ダイアログが表示されます。

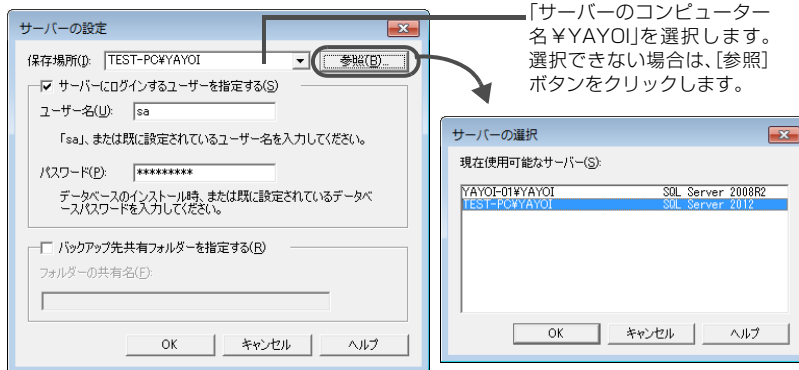


6. [保存場所] で「サーバーのコンピューター名 ¥YAYOI」を選択します。

サーバー(データベースをインストールしたコンピューター)のコンピューター名は、「コンピューター名の確認」(P32)でメモをしておいたコンピューター名です。

例えば、メモをしておいたコンピューター名が、「TEST-PC」の場合、[保存場所]は、「TEST-PC¥YAYOI」になります。

選択するコンピューター名が表示されない場合は、[参照] ボタンをクリックして、[サーバーの選択] ダイアログで選択します。



選択するサーバーが表示されない場合

[サーバーの選択] ダイアログの一覧にサーバーが表示されない場合は、[保存場所] に「サーバーのコンピューター名 ¥YAYOI」を直接入力してください。

サーバーのコンピューター名の確認方法

サーバーのコンピューター名を確認する方法については、「コンピューター名の確認」(P32)を参照してください。

7. [サーバーにログインするユーザーを指定する]にチェックを付けて、データベースのインストール時に設定した sa パスワードを設定します。

[ユーザー名]に「sa」と入力し、データベースのインストール時に設定した sa パスワードを入力します。

サーバーで、任意のユーザー名とパスワードを設定している場合は、そのユーザー名とパスワードを入力します。

重要

データベースのインストール時に下記の画面で設定したパスワードをここに入力します。

データベースのインストールで、データベースの管理者パスワード(sa パスワード)を設定する画面

→『データベースインストールマニュアル』-『第 2 章 データベースのセットアップ』

※「覚書(メモ)」「(P2)」も参考にしてください。

8. 設定が終わったら [OK] ボタンをクリックします。

9. [参照先の設定] ダイアログの [OK] ボタンをクリックします。



エラーメッセージが表示された場合

「サーバーにアクセスできませんでした」というエラーメッセージが表示された場合は、いくつかの原因が考えられます。対処方法については、『データベースインストールマニュアル』の「困ったときは」を参照してください。



メモ

「localhost¥YAYOI」が表示された場合

「事業所データの選択」ダイアログに「localhost¥YAYOI」が表示されることがあります。

事業所データ	
名前	
localhost¥YAYOI	
データがありません	
TEST-PC¥YAYOI	
株式会社 弥生トレーディング	

「localhost¥YAYOI」は、サーバーの保存場所 (P54) の参照先として登録されている初期値です。

「localhost¥YAYOI」を使用していない場合で表示が不要なときには、非表示にすることができます。非表示にするには、[参照先の設定] ボタンをクリックして、「localhost¥YAYOI」を選択し、[削除] ボタンをクリックします。

6

旧製品からの移行

旧製品の弥生会計のデータを弥生会計 19 で使用するには、データをコンバート(変換)する必要があります。

この章では、旧弥生会計製品のデータをコンバートする手順について説明します。

1 コンバートの概要	58
2 旧製品データのコンバート	59
3 分散入力用データのコンバート	64
4 マルチユーザー形式への変換	65

1 コンバートの概要

既に弥生会計製品をご使用の場合は、旧製品のデータを弥生会計 19 にコンバート(変換)することで、引き続き使用することができます。

1-1 コンバート対象製品

弥生会計 18、17、16、15、14、13、12 の下記の製品からコンバートできます。データファイルの他、バックアップファイルをコンバートすることもできます。

- 弥生会計ネットワーク(バックアップファイルはコンバートできません)
- 弥生会計プロフェッショナル2ユーザー(バックアップファイルはコンバートできません)
- 弥生会計プロフェッショナル
- 弥生会計スタンダード
- やよいの青色申告



コンバートデータのファイル名の前後に空白が含まれる場合

コンバートするデータファイル、またはバックアップファイルのファイル名の前後に空白(スペース)が含まれる場合はデータを認識できないためエラーとなり、コンバートできません。ファイル名の前後の空白を削除してからコンバートしてください。

分散入力機能を使用している場合(やよいの青色申告には、この機能はありません)

分散入力データはコンバートできません。そのため、すべての分散入力データを元データ(作成元の会計データ)に取り込んでから元データをコンバートします。分散入力機能を使用している場合のコンバートは「分散入力用データのコンバート」(P64)を参照してください。

2 旧製品データのコンバート

コンバート後のデータは新しいデータとして保存されます。コンバート元の会計データが消去されたり、変更されることはありません。

コンバートできる旧製品は弥生会計 12 以降の弥生会計です。P58 を参照してください。



コンバートできない項目

[決算書作成] ダイアログから表示する [印刷] ダイアログで、コンバート前のデータで設定した印刷の書式などは移行されません。決算書の作成時に確認してください。



弥生会計 13 以前の事業所データをコンバートする場合

弥生会計 13 以前のデータをコンバートすると、課税対象の税区分 (課税売上、課対仕入など) が設定された仕訳は、取引日付に関わらず消費税率 5% の税区分にコンバートされます。

コンバート後、必要に応じて仕訳の税区分を修正してください。

弥生会計 12 (Ver.18.0.9) 以前の事業所データをコンバートする場合

弥生会計 12 (Ver.18.0.9) 以前の事業所データをコンバートした場合、平成 23 年度に施行された税制改正の減価償却制度に基づき、固定資産が自動的に再計算されます。そのため、コンバート前とコンバート後で償却費の値が変わることがあります。

事業所データに固定資産が登録されていた場合には、コンバート後、デスクトップに固定資産変換ログが作成されます。固定資産変換ログでは、平成 23 年度の税制改正に基づき再計算された固定資産を確認できます (再計算された固定資産が存在しない場合は、固定資産変換ログには対象となる資産は表示されません)。

2-1 弥生会計 19 データへの変換

コンバート後のデータ形式

弥生会計プロフェッショナル / スタンダード / やよいの青色申告で作成されたデータは、スタンドアロン形式のデータへコンバートされます。

弥生会計ネットワーク / プロフェッショナル 2 ユーザーで作成されたデータは、マルチユーザー形式のデータへコンバートされます。



スタンドアロン形式からマルチユーザー形式へ変換してください

スタンドアロン形式にコンバートされたデータは、コンバート後にマルチユーザー形式への変換が必要です。

→ マルチユーザー形式への変換 (P65)

☞ 弥生会計 12 以降の事業所データをコンバートする

1. 弥生会計を起動します。

弥生会計の起動については、「弥生会計の起動」(P41)を参照してください。



メモ 弥生会計 12 以降がインストールされている場合

弥生会計 12 以降がインストールされているコンピューターに弥生会計 19 をインストールした場合は、弥生会計 19 を初めて起動したときに、旧製品の弥生会計で最後に開いていた事業所データをコンバートするかどうかの確認メッセージが表示されます。

コンバートする場合は、[はい] ボタンをクリックするとコンバータが起動して手順 5 に進みます。

2. [ファイル]メニューの[開く]をクリック、またはクイックナビゲータの[事業所データ]カテゴリ(または[スタート]カテゴリ)の[データの選択]をクリックします。

[事業所データの選択] ダイアログが表示されます。

3. [バージョン]でコンバート対象となる製品にチェックを付け、[データ種別]で変換するデータの種類の事業所データ、またはバックアップファイルから選択します。

条件に該当する事業所データが表示されます。

弥生会計ネットワーク、弥生会計プロフェッショナル2ユーザーの事業所データをコンバートする場合は、[データ種類]で「事業所データ」を選択します。



目的のデータが表示されない場合

目的のデータが表示されない場合は、[参照先の設定] ボタンをクリックして、[参照先の設定] ダイアログを表示します。

- ・弥生会計ネットワーク、または弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザーで作成した事業所データを表示させる場合

[サーバーを追加] ボタンをクリックして、データベースがインストールされているコンピューター(サーバー)を指定し、データベースのインストール時に設定した sa パスワードを設定します。

→「ログインパスワード(sa パスワード)の設定」の手順 6(P54)

- ・弥生会計プロフェッショナル、弥生会計スタンダード、やよいの青色申告で作成した事業所データを表示させる場合

[フォルダーを追加] をクリックして、データの保存先を選択します。保存場所の初期値については、下記の「データ(スタンドアロン形式)の保存場所」を参照してください。

- ・バックアップファイルを表示させる場合

[フォルダーを追加] をクリックして、データの保存先を選択します。

データ(スタンドアロン形式)の保存場所

スタンドアロン形式の事業所データ(弥生会計プロフェッショナル、弥生会計スタンダード、やよいの青色申告で作成した事業所データ)の保存場所の初期値は、次のとおりです。

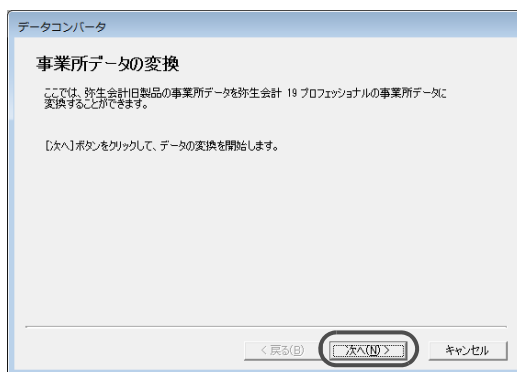
ドキュメント(Documents) ¥ Yayoi ¥ 弥生会計 XX データフォルダ

※「XX」には、該当する製品バージョンが入ります。

4. コンバートする事業所データを選択して、[開く] ボタンをクリックします。

データコンバータが起動します。

5. [次へ] ボタンをクリックして次の画面に進めます。



6. コンバートするデータを確認し、問題がなければ[次へ]ボタンをクリックします。

データコンバータ

データの確認

この事業所データを実換してよろしいですか？

事業所データの確認	
事業所名	株式会社 弥生トレーディング
会計期間	第 33 期(H27/04/01 ~ H28/03/31) 第 34 期(H28/04/01 ~ H29/03/31) 第 35 期(H29/04/01 ~ H30/03/31)
データ形式	マルチユーザー
保存先サーバー	TEST-PCWYAYOI
事業所データ名	株式会社 弥生トレーディング
コンバート元旧製品	弥生会計 18

他の事業所データを実換する場合は、[ファイル]メニューの[開く]をクリックして、実換する事業所データを選択してください。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. <法人の場合>

中間決算整理仕訳の入力作業をするかどうかを選択します。

この設定は、コンバート後に変更することはできません。

※ 下図は、コンバートするデータが既に「中間決算整理仕訳を行う」と設定されている場合は表示されません。

データコンバータ

中間決算整理仕訳の設定

中間決算整理仕訳を行いますか？
中間決算整理仕訳の設定はデータの実換後に変更することはできません。

☐ 中間決算整理仕訳を行う(Y)
☒ 中間決算整理仕訳を行わない(N)

「中間決算整理仕訳を行う」に設定した場合は、決算整理仕訳を「本決算」「中間決算」で区別して入力できます。また、集計表では「本決算」「中間決算」ごとの集計を行うことができます。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. コンバート後のデータの保存場所と事業所データ名を設定します。

保存先サーバーを変更する場合は、[参照]ボタンをクリックして保存先を選択します。

データコンバータ

保存先の設定

事業所データの保存先サーバーと事業所データ名を設定します。
データの保存先サーバーを変更する場合は、[参照]ボタンをクリックします。

保存先サーバー: TEST-PCWYAYOI 参照(S)...

事業所データ名(D): 株式会社 弥生トレーディング(33期~35期)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

9. 設定内容を確認し、問題がなければ[開始]ボタンをクリックします。

修正する場合は、[戻る]ボタンをクリックして修正する項目の画面まで戻ります。

10. コンバートの完了画面が表示されたら、[終了]ボタンをクリックします。

引き続き他の事業所データをコンバートする場合は、[継続]ボタンをクリックして手順 4 からの操作を行ってください。

スタンドアロン形式のデータに変換された場合

弥生会計プロフェッショナル/スタンダード/やよいの青色申告のデータをコンバートした場合、スタンドアロン形式のデータに変換されます。これらのデータをコンバートした場合は、下図のメッセージが表示されます。コンバートしたデータを弥生会計 プロフェッショナル 2 ユーザーまたは弥生会計 ネットワークで使用するには、マルチユーザー形式に変換する必要があります。マルチユーザー形式の変換については「マルチユーザー形式への変換」(P65)を参照してください。

3 分散入力用データのコンバート

分散入力用のデータは、弥生会計 19に直接コンバートすることはできません。分散入力機能を使用している場合は、次の手順でコンバートをしてください。

1. 分散入力データを元データにすべて取り込みます。
2. 元データを弥生会計 19 にコンバートします。
3. コンバートしたデータで分散入力用データを作成します。

1. 《旧製品》分散入力データを元データに取り込む

分散入力用データで入力した仕訳データを、すべて元データに取り込みます。操作手順は、旧製品の『操作マニュアル』を参照してください。

1. すべての分散入力用データで、差分データを送信します。
2. 手順 1 で送信された差分データを元の事業所データで取り込みます。

2. 《弥生会計 19》元データを弥生会計 19 へコンバート

分散入力用データを取り込んだ元データを、弥生会計 19へコンバートします。コンバート手順は「旧製品データのコンバート」(P59)を参照してください。

3. 《弥生会計 19》コンバート後のデータで分散入力用データを作成

コンバートした事業所データを開き、次の作業を行います。分散入力の操作手順は、『操作マニュアル』を参照してください。

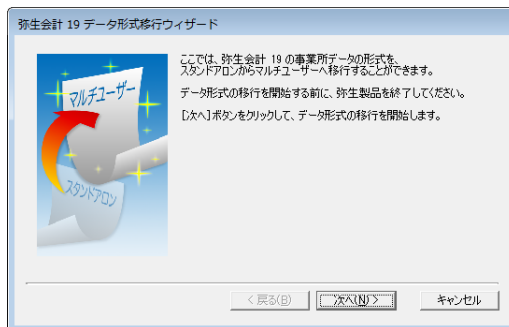
1. 分散入力用データを作成します。作成した分散入力用データを、分散入力を行う支店や事業所に送ります。
2. 支店では、受け取った分散入力用データを弥生会計 19 に取り込みます。
取り込んだ分散入力用データで仕訳入力を開始できます。

4 マルチユーザー形式への変換

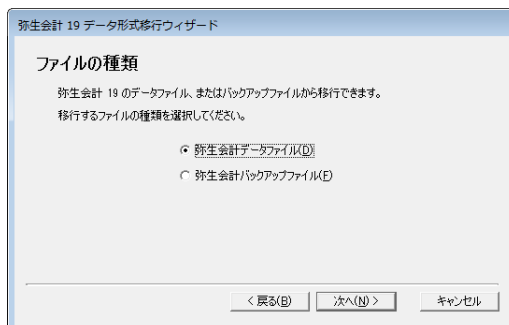
弥生会計 19の「スタンドアロン形式」のデータを「マルチユーザー形式」のデータに変換します。

☞ スタンドアロン形式からマルチユーザー形式に変換する

1. すべてのプログラムを終了します。
弥生会計が起動しているとデータ形式移行ウィザードを実行できません。
2. デスクトップの弥生 マイポータルアイコンをダブルクリックします。
[弥生 マイポータル]が起動します。
3. [弥生会計]メニューの[サポートツール]－[その他のサポートツール]をクリックします。
「サポートツール」フォルダーが開きます。
4. [データ形式移行ウィザード]をダブルクリックします。
[データ形式移行ウィザード]が起動します。
5. [次へ]ボタンをクリックします。



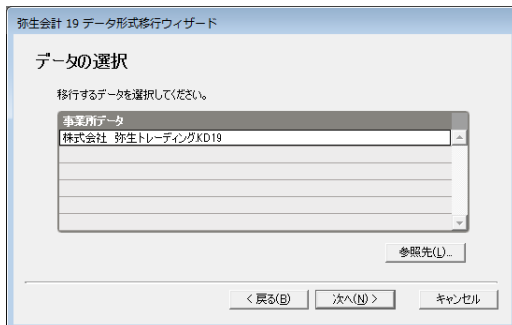
6. 変換するデータの種別を、事業所データのファイル、またはバックアップファイルから選択します。



7. 変換するデータを選択します。

<データファイルを変換する場合>

目的のデータが表示されない場合は、[参照先] ボタンをクリックして、変換するデータが保存されているフォルダを選択します。



スタンドアロン形式にコンバートされたデータの保存場所

弥生会計 プロフェッショナル/スタンダード/やよいの青色申告の事業所データをコンバートしてスタンドアロン形式に変換されたデータは、P62 の手順 8 で指定した場所に保存されています。

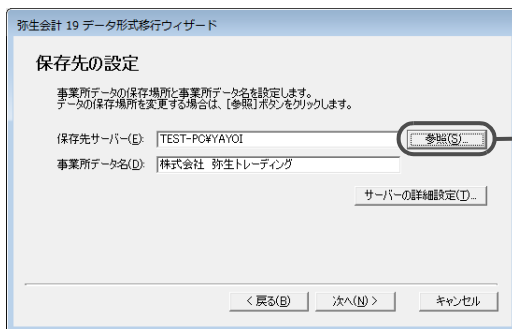
保存場所の初期値は、次のとおりです。

ドキュメント(Documents)¥Yayoi¥弥生会計 19 データフォルダ¥

<バックアップファイルを変換する場合>

[参照] ボタンをクリックして、変換するバックアップファイルを選択します。

8. ムルチユーザ形式へ変換後のデータを保存するサーバと、事業所データ名を設定します。



[参照] ボタンをクリックして、「サーバのコンピューター名¥YAYOI」を選択します。



選択するサーバが表示されない場合

[サーバの選択] ダイアログの一覧にサーバが表示されない場合は、[保存場所] に「サーバのコンピューター名¥YAYOI」を直接入力してください。

サーバのコンピューター名の確認方法

サーバのコンピューター名を確認する方法については、「コンピューター名の確認」(P32)を参照してください。

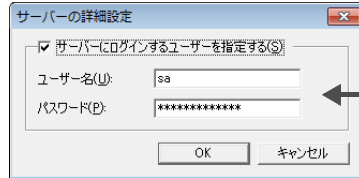
9. [サーバーの詳細設定] ボタンをクリックします。

[サーバーの詳細設定] ダイアログが表示されます。

10. [サーバーにログインするユーザーを指定する] にチェックを付けて、データベースのインストール時に設定した sa パスワードを設定します。

[ユーザー名] に「sa」と入力し、データベースのインストール時に設定した sa パスワードを入力します。

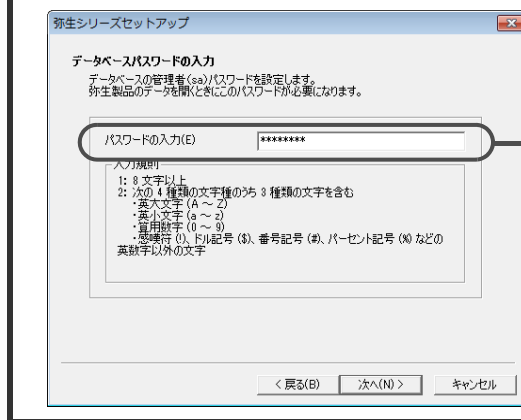
任意のユーザー名とパスワードを設定している場合は、そのユーザー名とパスワードを入力します。



重要

データベースのインストール時に下記の画面で設定したパスワードをここに入力します。

データベースのインストールで、データベースの管理者パスワード(sa パスワード)を設定する画面
→『データベースインストールマニュアル』-「第2章 データベースのセットアップ」
※「覚書(メモ)」(P2)も参考にしてください。



11. [OK] ボタンをクリックして、[サーバーの詳細設定] ダイアログを閉じます。

[保存先の設定] 画面が表示されます。

12. [次へ] ボタンをクリックします。

[設定内容の確認] 画面が表示されます。

13. 設定内容を確認して、[開始] ボタンをクリックします。

14. 変換の完了画面が表示されたら、[終了] ボタンをクリックします。



エラーメッセージが表示された場合

「サーバーにアクセスできませんでした」というエラーメッセージが表示された場合は、いくつかの原因が考えられます。対処方法については、『データベースインストールマニュアル』の「困ったときは」を参照してください。



データ変換後の元データの扱いについて

データ形式変換後のデータは新しいデータとして保存されるため、元のデータはそのまま残ります。そのため、スタンドアロン形式とマルチユーザー形式で同一の事業所データが存在することになります。変換前のスタンドアロン形式のデータは、念のため、データファイルまたはバックアップファイルをUSBメモリなどの記憶媒体にコピーしてから、コンピューターのハードディスクからは削除することをお勧めします。

マルチユーザー形式で運用する場合

複数のコンピューターから同時にデータを開くには、データ形式変換後の事業所データにアクセスするユーザーを登録する必要があります。ユーザーの登録については、ヘルプを参照してください。

7

プログラムの修復と削除

弥生会計のプログラムの修復と削除について説明します。

1 プログラムの修復と削除	70
---------------------	----

1 プログラムの修復と削除

弥生会計または付属プログラムの修復(再インストール)と、ハードディスクからの削除について説明します。

なお、データベースの削除については『データベースインストールマニュアル』を参照してください。

1-1 弥生会計または付属プログラムの修復

弥生会計の動作が不安定になった場合などは、次の手順で弥生会計を再インストールして修復することができます。「一括バックアップツール」、「弥生 ライセンス認証管理」も同様の手順で修復できます。

修復を行うことで事業所データが削除されることはありません。プログラムの修復後、そのままご利用いただけます。



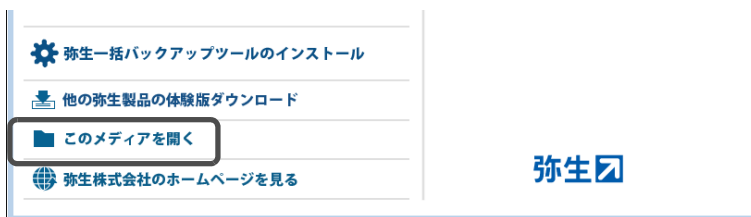
弥生会計の事業所データは修復されません

弥生会計のプログラムの修復では、作成した事業所データを修復することはできません。



弥生会計または付属プログラムを修復する

1. 起動しているすべてのプログラムを終了します。
特に、常駐プログラムが動作していると、正しく修復できないことがあります。
2. DVD-ROM ドライブに弥生会計 19 の DVD-ROM をセットします。
[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されます。
3. [このメディアを開く]ボタンをクリックします。



4. 「YKaikai」-「Kaikai」をダブルクリックします。
「Kaikai」フォルダーが表示されます。
次のツールを修復する場合は、「YKaikai」-「Kaikai」ではなく、各ツールのフォルダーをダブルクリックしてください。
 - 一括バックアップツールを修復する場合
「BackupTool」をダブルクリックしてください。
 - 弥生 ライセンス認証管理を修復する場合
「YNinsyo」をダブルクリックしてください。
5. 「Setup」をダブルクリックします。
6. 「ようこそ」画面が表示されるので、[次へ] ボタンをクリックします。
7. [修復] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。



8. 修復の確認画面で、[インストール] ボタンをクリックします。
9. 弥生会計 19 の修復が完了したらウィザードの完了画面が表示されるので、[完了] ボタンをクリックします。
10. DVD-ROM ドライブから DVD-ROM を取り出します。

1-2 弥生会計または付属プログラムの削除

「弥生会計」や「所得税確定申告モジュール」、「一括バックアップツール」、「弥生 ライセンス認証管理」をハードディスクから削除する場合は、次の手順で行います。なお、弥生 ライセンス認証管理は、他の弥生製品がインストールされていると削除できません。削除する場合は、他にインストールされている弥生製品が無いことを確認した上で行ってください。また、弥生 ライセンス認証管理を削除すると弥生 ネットワーク設定、弥生ドライブ、デスクトップの弥生 マイポータルも併せて削除されます。



弥生会計の事業所データは削除されません

事業所データの削除については、弥生会計のプログラムを削除する前にヘルプを参照してください。

所得税確定申告モジュールについて

所得税確定申告モジュールとは、青色申告決算書（または収支内訳書）、所得税確定申告書Bを作成する機能で、弥生会計と一緒に使用されます。別プログラムとしてインストールされているため、弥生会計とは別に所得税確定申告モジュールのアンインストール（削除）が必要です。



弥生会計を削除する前の注意

弥生会計を削除する前に、必ずライセンス認証の解除を実行してください。ライセンス認証の解除を行う前に弥生会計を削除すると、別のコンピュータで弥生会計を使用できなくなります。弥生会計を別のコンピュータにインストールする場合や、お使いのコンピュータを廃棄する場合、コンピュータをフォーマットする場合は、必ずライセンス認証の解除を行った後、弥生会計を削除してください。

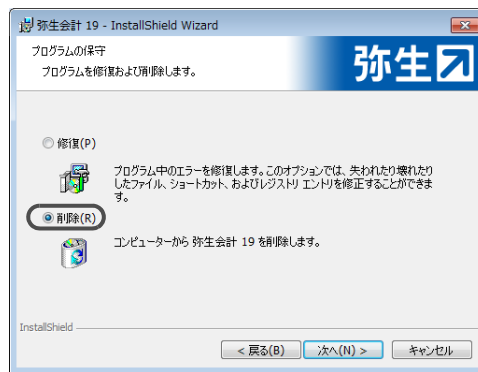
→「ライセンス認証の解除」(P47)



弥生会計または付属プログラムを削除する

1. 弥生会計を削除する場合は、ライセンス認証を解除します(P47)。
「弥生一括バックアップツール」のみを削除する場合は、ライセンス認証の解除は必要ありません。
2. 起動しているすべてのプログラムを終了します。
3. [アプリと機能]または[プログラムと機能]を表示します。
Windows 10/8.1 の場合: [スタート]ボタンから[設定]－[アプリ]をクリックします。
Windows 7 の場合: [スタート]ボタンをクリックして[コントロールパネル]－[プログラムのアンインストール]をクリックします。

4. 表示されるプログラムの一覧から[弥生会計 19]をクリックして選択します。
次のツールを削除する場合は、[弥生会計 19]ではなく、各ツールを選択してください。
 - 所得税確定申告モジュールを削除する場合
[所得税確定申告モジュール]を選択します。
 - 一括バックアップを削除する場合
[弥生一括バックアップツール]を選択します。
 - 弥生 ライセンス認証管理を削除する場合
[弥生 ライセンス認証管理]を選択します。
5. [変更] (または[アンインストール]) ボタンをクリックします。
6. 「ようこそ」画面が表示されるので、[次へ] ボタンをクリックします。
7. [削除] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。



8. 削除の確認画面で、[削除] ボタンをクリックします。
9. 完了画面が表示されたら、[完了] ボタンをクリックします。



弥生会計の DVD-ROM を使用して削除する

弥生会計の削除をコントロールパネルから行えない場合は、弥生会計 19 の DVD-ROM を使用して削除を行うことができます。

DVD-ROM を使用して削除する場合は、ライセンス認証を解除してから (P42)、「弥生会計または付属プログラムの修復」(P70) の手順に従って弥生会計のインストーラーを実行し、手順 7 で[修復]ではなく[削除]を選択して処理を続行します。

.....

.....

[illegible]

.....

.....

.....

.....

[illegible]

.....

.....

[illegible]

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

[illegible]

.....

弥生会計 19

(ネットワーク／プロフェッショナル2ユーザー)

インストール・コンバート マニュアル

- ・初版 2018年8月27日
- ・発行所 弥生株式会社
〒101-0021
東京都千代田区外神田4丁目14番1号
秋葉原UDX21階
www.yayoi-kk.co.jp
- ・ご注意
 - ① 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
 - ② 本書の内容に関しては訂正・改善のため、将来予告なしに変更することがあります。
 - ③ 落丁、乱丁はお取り替えいたします。

Copyright © 2018 Yayoi Co., Ltd. All rights reserved.